恒心教の歴史

―闇と光が混ざり合う不思議な冗談(？)宗教―

恒心教の歴史

光と闇が混ざり合う不思議な冗談(?)宗教

恒心教歴史保存会

目次

そもそも恒心教とは 3
恒心教の歴史 4
前史 4
覆水盆に返らず 4
尊師、降臨 9
チキンレース、開幕 11
コスプレイヤー参戦 17
「唐澤貴洋」というコンテンツへ 17
「掲示板」という文化へ 19
唐澤貴洋掲示板の成立 19
鎖国時代 19
乗っ取り、そして開国 20
黄金時代 21
バブル崩壊と原理主義の台頭、連続爆破予告事件 22
唐澤のメディア進出 22
唐澤貴洋と関わるというリスク 23
唐澤貴洋によるカラケーへの攻撃 24
「なりすまし」が世間を騒がせる 24
外部からの荒らしとの紛争 25
唐澤貴洋、自伝を出版する 27
警察までもが被害者に 27
唐澤貴洋の行動の変化、恒心教の抗争 28
メディアへの頻出 28
終わりなき争いへ 28
終戦に伴う大きな傷跡 30
新たな敵「飯塚軍」 32
「同名」の人物が騒動を起こす 32
「荒らし」が生きがいとなった集団との敵対 33
唐澤貴洋の遵法精神の崩壊 33
犯行予告に革命起こる 34
秀才が逮捕される 34
文化としての恒心教 36
犯罪組織として見た恒心教 36
恒心教内においての役割を持つ人の呼称 37
ミイラ取りがミイラになる。 38
「匿名」という文化 39
疾患・障害と恒心教との関係性 40
なんＪ鉄壁４点セットから始まる匿名化技術の普及 40
「唐澤・Ｈイジリ」が産んだ文化 40
自分語りに対する禁忌 42

結論 恒心教は社会に何をもたらしたか 43
恒心教でよく使われる用語集 44
編集後記 50

そもそも恒心教とは

恐らく本書を読む方の中には恒心教が何か分からない人も多いだろう。詳細については後述するが、はじめに本章ではこの概念の成立とその後の発展に焦点を当てて説明する。

日本最大級の匿名掲示板である 2 ちゃんねる(現 5 ちゃんねる)の板のひとつ「なんでも実況ジュピター(以後なん J と表記)」は、2009 年当時は設定が厳しく、同時に立てられるスレッドの数はかなり制限されていた。しかし、その中で固定ハンドルネーム付きで書き込みを繰り返し、その行為自体もさることながら書き込みは低俗極まりなく、多くのユーザーから長きにわたってヘイトを買っていた人物が存在した。2012 年の春先、彼は自分の書き込んだ大量の点と点が芋づる式に繋がり、本名(以後 H と表記)を特定され、炎上することとなる。

匿名掲示板で特定されることになるとは思いもしなかった H は、唐澤貴洋弁護士を雇い、悪質な書き込みを続けるユーザーに対し、裁判に持ち込むことで、実名を書き込まれ続けるなど誹謗中傷の悪循環を断ち切ろうと画策する。しかし、唐澤貴洋は開示請求のみを行い、本来行うべき名誉毀損や損害賠償の裁判を起こさなかったため、慄いていたなん J ユーザーは次第に唐澤貴洋の粗探しに突入。興奮冷めやらぬ 5 月、唐澤弁護士は自分自身への書き込みを無差別に開示し、H が主役だった炎上の矛先を完全にずらしてしまった。

不幸にも、この時は NHK スペシャルで放送されたオウム真理教がなん J 内で話題となっており、この大炎上はやがて H を「預言者」、彼が雇った唐澤貴洋を「尊師」と見なす架空の宗教という一種の茶化しへと発展していくこととなる。

これが実に 10 年以上あがる火柱の酸素である、冗談宗教「恒心教」の産声である。

恒心教は冗談宗教という名目のため、恒心教に関わる人を一般的な宗教の信者と同様に教徒と呼ぶ事が多い。本誌でも恒心教の騒動に関わる人物という意味で(恒心)教徒を使う事とする。

恒心教はインターネットコミュニティの一生と言われている「面白い人が面白いことをする→面白いから凡人が集まってくる→住み着いた凡人が居場所を守るために主張し始める→面白い人が見切りをつけて居なくなる→残った凡人が面白くないことをする→面白くないので皆居なくなる」というサイクルがあまり当てはまらない。

なぜなら、ここに「唐澤貴洋が面白いことをする」という物が最後に付け加えられ、また面白い人が面白いことをするにつながるからだ。そのため、これほどの長期に渡って炎上し続けている理由がある。

また、恒心教の事を犯罪組織であると言う人も居るが、厳密には犯罪組織ではない。恒心教は犯罪コミュニティであり、組織に必要な物が存在しない。詳細は後述するが、山口組のような犯罪組織というよりかはアノニマスのようなコミュニティのほうが近い。むしろ日本版アノニマスと捉えてもよいだろう。

本書では、恒心教が長期に渡って活動する事になった歴史を解説していく。この炎上がどうして長期化しているのかは、解説によって分かるだろう。

恒心教の歴史

前史

Ｈの炎上騒動は、なんＪの文化や大まかな歴史を知らずには語れない。そこで前史では炎上に至るまでの背景情報を紐解いていく。

そもそもなんＪは元々過疎板であった。しかし 2009 年５月に野球 ch から来た難民が乗っ取った事により、なん Ｊ は「なんでも実況」から、「野球実況」を中心としたゆるりとした雑談板へと変貌を遂げたのである。ところで、野球 ch の住民達は他の板と比べて気性が荒く、「巨人小笠原スレ」などの実在の人物をネタにする文化が根付いていたため、そのままなんＪにもこの文化が輸入され、結果的にＨの炎上を助長する要因の一つに繋がる事になる。

また、当時の２ちゃんねるユーザー達のまとめブログへの忌避感もなんＪの風土形成に一役買った。それが「猛虎弁」と呼ばれる関西弁をモチーフとした独自の言い回しだ。これはまとめブログに転載され飯の種として自分たちが利用されることを危惧したなん Ｊ 民達が編み出した、当時のネットにあった関西弁排除の姿勢を逆手にとる転載対策の魔除け的な言い回しである。これによる独特の雰囲気が、ただの掲示板ユーザーであるなん Ｊ 民に集団的な帰属意識を醸成していったといっても良いだろう。

そして、まとめブログを忌避する他の板の住民や、他の掲示板であまり扱われない野球の話題に惹かれたユーザーも徐々になんＪへ移動し始めた。

このようにして、なん Ｊ は猛虎弁、巨人小笠原スレ、野球を始めとする独自の文化を築き上げたのだが、人が増えるにつれて目立ちたがり屋は出てくるものである。匿名掲示板ではそれが、Ｈを始めとするコテハン（固定ハンドルネーム）と呼ばれている存在であった。

Ｈが書き込みを始めたのは 2009 年 10 月。無関係の作品のキャラクターをコテハンにした彼の書き込みは、数多く居たそれらの中でも「荒らし」と呼んで過言ではない程の常軌を逸したものであり、それが多くのなんＪ民から反感や憎悪などを買っていくこととなる。具体的な書き込みについては後述する。

2012 年の １ 月、未成年飲酒や試験での不正・列車内での性器露出等の行為によって炎上したとある人物がいた。以降彼を「S」とする。Ｈも「そこそこ良い高校だから親が泣いちゃうw」「S 家崩壊の時間だあw」といったように彼の炎上に加担していたのだが、ここで彼の特定に使われた「同じ名義の他ソーシャルメディアを探す」手法はなんＪ内に確立された。これはＨ本人の特定にも流用され、この日（2012 年 1 月 23 日）から約２か月後（同年 3 月 7 日）にＨは特定されてしまう。

余談だが、Ｈも未成年飲酒をほのめかす書き込みを幾度となく繰り返していた。

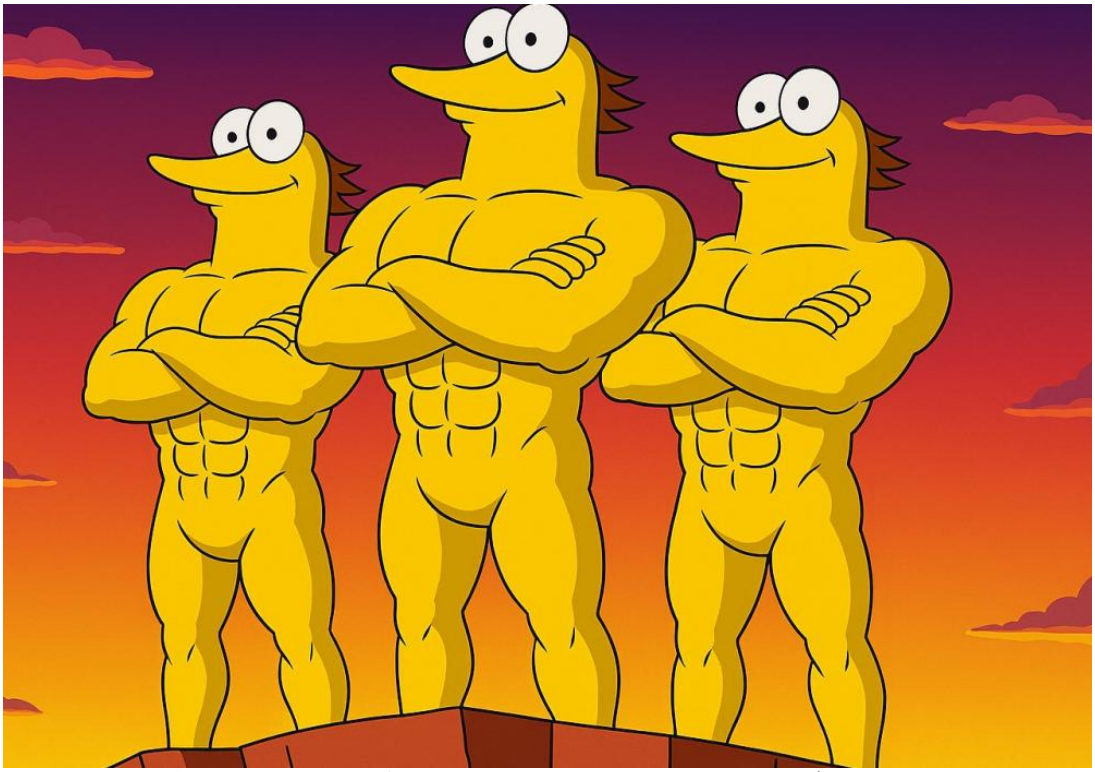
覆水盆に返らず

2012 年 3 月 7 日、この日は誰から見てもなんて事は無い日のはずだった。
それが 14 時 28 分、彼はなんＪ民に「大学に合格したというのは虚言」と挑発され、大学に進学した事を証明する為に合格通知書の画像をアップロードした。

「俺も S 達の例があるからこんな事はしたくない」と後に弁明したものの時は既に遅く、これが彼が特定される引き金となった。

合格通知書の情報をまとめたサイトからあっさり指定校推薦で大学に進学したと特定され

てしまう。
　画像を取り消すも彼らの手により拡散され、それでも抵抗を試みる H は「大学は AO 入試による合格であり、滑り止め校である」と主張。
　しかしその発言と動揺ぶりから通知書は本物であると確定、特定の機運が高まる。
　その後とあるコテハンがニコニコ生放送にて H を呼んで説明を求めた。だが彼は「マイクが壊れた、今からバイトだから」と逃げてしまった。



◆積み重ねられた鬱憤を晴らすべく、反撃の狼煙を上げた風の民

　特定作業は着々と進み始めていた。過去の書き込みと H のニコニコ生放送で公開していた情報から特定を始めるなん J 民たち。
　17 時になると H の高校特定が始まった、様々な高校が挙げられていたがどれも H が在籍していた高校ではなかった。
　しかし H が別の掲示板にてコテハン付きでの過去の書き込み（なん J 民からは自分語りと呼ばれていた。）や行事予定から高校が特定されてしまう。
　様々な情報がパズルのピースの様に組み合わさり、詳細な個人情報が一枚絵のように完成しようとしていた。
　当時多く使われていた H の mixi アカウントを特定しようとなん J 民は mixi を捜索していたが、18 時を過ぎても mixi アカウントの特定ができない状態にあった。
それは H が特定作業が進むスレッドを監視し、アカウントのプロフィールの大学を変更した H。
　これで検索に引っかからないと思い一安心してしまう。

しかし、プロフィールの大学を変更しても検索のキャッシュ（一定時間検索結果に残る情報）が残っており、彼の本名の情報や情報を書き換えた時間が残ってしまっていた。
そこをなんＪ民に怪しまれ、ついにＨの本名が書き込まれてしまった。
一方で特定が進んでいる最中で「mixi の個人情報がそのままであるというのもおかしい」と懐疑的な見方をするなんＪ民も現れる。
大学名が違うのに検索にヒットしている証拠のスクリーンショット画像が取られ、Ｈ 本人であるという見方が決定的になっていった。
mixi のプロフィールに乗っていた Twitter アカウントも分析が開始され、アカウントで猛虎弁を多用している事が大きな話題となった。
新しく出てきた Twitter アカウントをこれまでの情報と摺り合わせ確定的なものとしていくなんＪ民たち。
ついに本名も経歴も判明してしまったＨは、mixi のプロフィールで開き直りを行った。

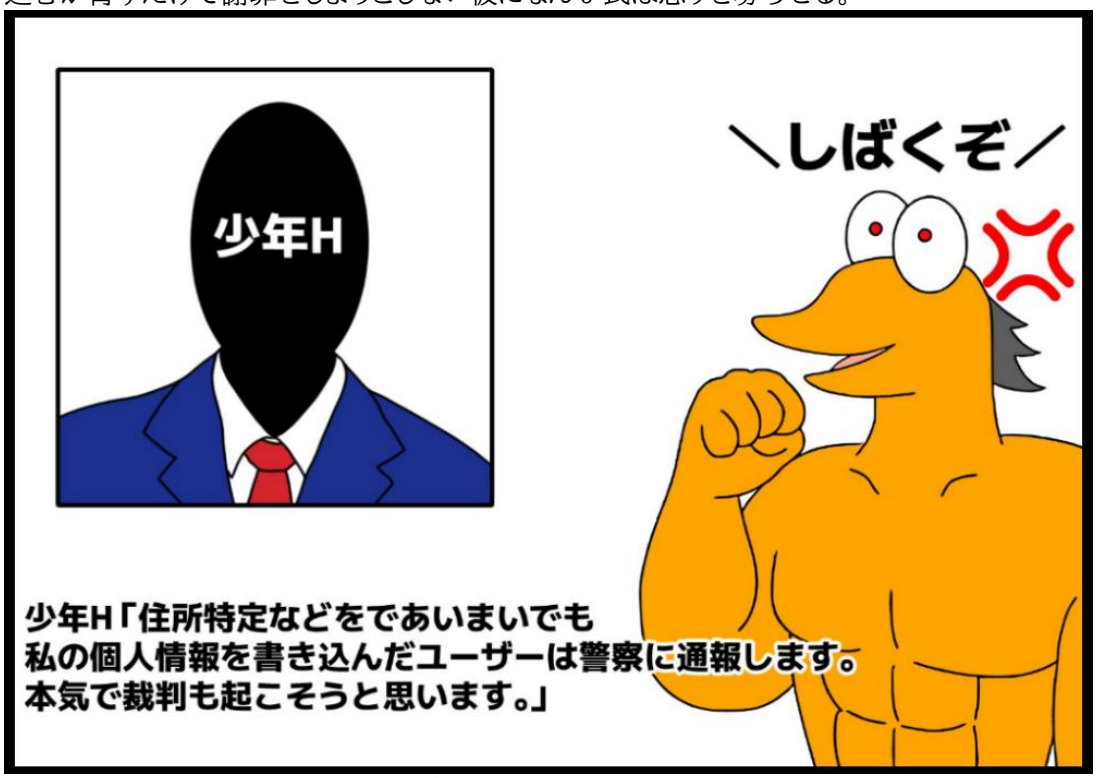
「開き直る･･･ワイがＨや！」

なんＪ民が持っていた 99％の確信が 100％になった瞬間である。
「ちょっとかっこいいわｗワロタw」「おもろいやんw」
彼の開き直りを笑いながら称賛するなんＪ民。しかしなんＪ民はＨが過去に書き込んでしまった未成年飲酒を大学に通報しようとする。
称賛は一転して、これまでの憎しみを晴らすようになんＪ民は彼を追い詰めていく。
Ｈは「（Ｈの実名）参上！」というスレッドを立て、推薦取り消しを恐れたのか未成年飲酒は嘘と主張していた。
ついには「酔ったのは車酔い」という意味の分からないごまかしをしていた。
「飲酒ツイートをした Twitter アカウントは別人、なんで決めつけるん」と Twitter アカウントは自分とは別人であるとして飲酒を否定していたが、証拠を叩きつけられてしまう。
その証拠とは、件の Twitter アカウントのブログの写真と Ｈ が過去にあげた写真が同一であるというものであった。
Ｈ は「（ブログの写真が）良い写真だったから転載した」と答えるが、なん Ｊ 民から「いやそれ順番逆だよ」と指摘されてしまう、ブログの方が後で Ｈ が転載したと言った方こそ先であった。
決定的な指摘をされてしまいＨは別人であると言えなくなってしまった。

こんな状態になってもまだ、Ｈ は呑気であった。「正直今が俺のコテ人生のピーク」と書き込むほどである。
風呂に入ると書き込み、2 時間ほど書き込みが途絶えた。
Ｈがいなくなると彼の住所の特定は再び進んだ。
Ｈ のマイミクに同じ中学校の出身者が多かった事から Ｈ がその中学校出身であると見られ、中学校の学区から住所特定が試みられた。
この時出身小学校も分かり、小学校の学区からも特定が始まってしまう。
また同時期に発見された「自己紹介したい（Ｈの実名）さんに 100 の質問」の内容は小学校学区の情報を補強するもので、小学校学区レベルまで彼の居住地域は絞り込められてしまっ

た。

彼の当時の心境と行動を考察してみよう。
風呂から上がったＨは恐怖しただろう、住所がすぐそこまで特定されていたのだから。
これ以上家族に迷惑をかけるわけにはいかない、そう思っただろう Ｈ は意を決して両親に報告したのだろう。
そしてＨはコテハンを引退するというスレッドを立てた。
今まで掲示板で使ったことのない敬語を使い、謝罪を始めた。
だがその謝罪文というのが、謝罪に見えるがその実警察と司法をちらつかせながら脅迫する「謝罪風脅迫」だった為なんＪ民を焚きつけてしまった。
なんと、過去にＨは「俺の特定か？したけりゃさせてやる。」と書き込んでいた事を指摘されてしまう。
Ｈ は「住所を調べたり書き込んだ方は覚悟してください、本気で裁判を起こします。」と書き込むが脅すだけで謝罪をしようとしない彼になんＪ民は怒りを募らせる。



◆伝説の謝罪風脅迫

謝れとなんＪ民に言われたＨはようやく謝罪をするが、Ｈに何度も煽られていたなんＪ民は許そうとはしない。
それにＨもＳと呼ばれるコテハンの特定に加担していたのだ。
当時多くいたなん Ｊ 民に最低な書き込みを繰り返し嫌な思いをさせ、特定にも嬉々として

加担したのにいざ自分が標的となると警察や司法を盾にして脅迫する……
その態度がなんＪ民を怒らせ、「Ｈは許せない」という意見が大勢を占めた。
この時、スレッドは 2ch 一位の勢いであった。

こうしてコテハンＨはなんＪからいなくなった……
かと思われた。
日付が変わった８分後、あるレスが書き込まれた。
「いつとは言わんが以前ガチで同じクラスだっただけになんとも言えないですわ・・・・・・」
なんとこのレスの ID が昨日のＨと同じ ID だったのだ、恐らく同級生を演じて炎上を鎮火しようとしていたのだろう。
2ch では日付が変わったら ID が変わるのだが、日付を変わっても ID が変わらない事が稀にあるのだ。
なんＪ民は「Ｈを絶対に許さない」と、更に怒りの炎を燃やすのだった。
こうして 10 年以上も続く、ハセカラ騒動の火蓋が切られた。
Ｈ自身の横暴な振る舞いだけでなく、当時のなんＪの過激さが 10 年以上に渡る呪いへと変貌した瞬間である。

３月８日、Ｈがいなくなった後もなんＪ民は住所特定を進めていた。
2ch にあるＨが入学する大学のスレッドがあるのだが、そこにＨの実名を書き込む動きが活発になる。
彼らの行動はエスカレートしていく、その主な理由はＨの今までの行いもあるが、その前日の３月７日のある書き込みがその引き金となった。

「俺は嫌な思いしてないから。」……
正確な書き込みはこうだ。

「俺は嫌な思いしてないから
それにお前らが嫌な思いをしようが俺の知った事ではないわ
だって全員どうでもいい人間だし
大袈裟に言おうがお前らが死んでもなんとも思わん
それはリアルでの繋がりがないから
つまりお前らに対しての情などない」

この書き込みの意味は「誰かが嫌な思いをしていようと、己は嫌な思いをしていない…だから何をしてもいい。」
Ｈがそういうのだから、自分達もＨにそうしていい。
そんな風潮が広まっていく。

Ｈはエスカレートする嫌がらせに対抗する為に、なんＪの文化が詳しく纏められているなん

Jwiki というwikiサイトにある自分の項目を削除した。
　自分の項目だけ消すとバレてしまうと思ったのか他のコテハンの項目も纏めて削除していた。
しかしこの時に項目を削除するのはＨしかいない、往生際の悪いＨになんＪ民は更に怒りを燃やす。
　彼の項目は削除から 27 分で復帰してしまう。すると Ｈ は運営会社に「個人情報が載せられた wiki がある」と通報。
　2012 年 3 月 11 日…なん Jwiki は閉鎖されてしまう、お客さん（所謂にわか）が増えるというデメリットも有ったがクオリティの高さから多くのなんＪ民の心の拠り所でもあった。
　これには当初Ｈの騒動を敬遠していたなんＪ民もＨに対し反感を持つようになった。

　消すと増える…… Ｈはニコニコ動画や YouTube に投稿された自身の個人情報が含まれた動画を削除したり、Ｈ の個人情報が含まれた wiki サイトを削除したりしていたがそれでもＨの個人情報は溢れ出ていた。

　3 月 15 日、卒業アルバムに載っていた Ｈ の顔写真が晒されてしまう、この Ｈ の写真はなんＪ内でフリー素材扱いされるようになってしまった。
　なんＪで酷い扱いが止まらない Ｈはついに行動を起こす。
　3 月 23 日、Ｈ が入学する大学のスレッドにて何者かが「明日法テラスにここのログもってくので覚悟しろ」と書き込む。
　しかし、なんＪ民は意に介さない。未成年飲酒や差別的な書き込みをした人物をまともに相手にするはずがないと考えていたからだ。
　しかし、法テラスに行けば弁護士は紹介してもらえるかもしれないと考えるレスは散見される。
　だが、この法テラスの件からどうやって Ｈ の大学の入学式に潜入するかの話題に変わっていった。
　3 月 28 日、まだ炎上は続いていた。Ｈの入学式まで後わずか。
　そんな日の 18 時 49 分、削除要請板に Ｈ に対する誹謗中傷の書き込みの IP 開示要求がなされたのだった。
　それを行ったのはＨ 自身ではない。
　なんＪ民があり得るはずが無いと思っていた、Ｈに雇われた弁護士が行ったものであった。
　Ｈに雇われた弁護士こそ、騒動を長期化させる原因となる唐澤貴洋弁護士その人であったのだ。

尊師、降臨

　唐澤貴洋の登場により、なんＪ民達は衝撃を受ける。
　どれぐらいの衝撃だったかと言うとそれまで当然のように書き込まれていた Ｈ の実名が書き込まれなくなる程だ。
　弱気な書き込みはなかったが、明らかになん Ｊ 民は弱腰になっていた。「俺はやばいと思ってた」
　そして弱腰ななんＪ民の不安を煽る書き込みが増え始める。

なんＪ民を叩く書き込みも増え、なんＪ民の恐怖心は増大していく。所詮ネットでの出来事で、何をしようとリアルの自分には関係が無い……
そんなかつてのＨと似たような思いを持っていたなんＪ民は思い知らされる。「ネット」と「リアル」は関わり合うのだと。

なんＪ民は恐怖心からなのかどのような処分が下されるのかを調べ始める。
情報を整理するうちになんＪ民の恐怖心は和らいでいった、なんＪ民が動揺した主な原因は「Ｈが弁護士をつけたこと」と「裁判を起こされるかもしれない」という点への恐怖だ。
時間が経過すると共に冷静に考えるなん Ｊ 民が増えた、言い聞かせて平常心を保とうとしていたという面もあるかもしれないが。

だがそれはなんＪ民達が実際に危惧していた通りにはならなかった。
書き込み時に「どこから書き込んだのかを示すネット上の住所」となる IP アドレスを開示こそすれど、実際に書き込みの主に裁判をしかけるという事をしなかった故に実害は無かったのである。
これが唐澤貴洋以外の弁護士であれば見せしめに何人かと裁判をして炎上を鎮めたかもしれない、しかしこの弁護士はそれをしなかった。
こうして炎上は増大・長期化していく。

３月 29 日には「コテハンが炎上して弁護士を雇った」と VIPPER（ニュース速報（VIP）板の住人のこと）が聞きつけて唐澤貴洋が現れた削除要請スレッドに凸を開始。
２ちゃんねる 2012 年４月大規模規制が発生、2ch 全土に影響が及んでしまった。
この大規模規制の発生によってプロ野球オープン戦の時期にも関わらずなん Ｊ では野球実況ができなくなってしまい、この規制の原因である H をなんＪ民は更に恨むのだった。
また、この規制の影響で有料サービス「2 ちゃんねるビューア（通称●）」を購入する人が増加した、これは後々の大騒動に繋がっていく事になる。

VIPPER が削除要請スレッドを荒らす中、なんＪ民は Ｈの雇った弁護士である唐澤貴洋に注目していた。
「Ｈの弁護をするなんて可哀想」という同情的な見方が多い中、彼がどのような人物なのか興味を持ったなんＪ民が調べ始める。
すると唐澤貴洋のおかしな点が見つかり始めたのだ。
経歴の空白期間、誹謗中傷への訴訟を受け持っているのに裁判に至っていないこと、宣伝ブログの乱立、公式 Twitter アカウントが宣伝ツイートばかり呟いていることなどから疑惑の目を向けられ始める。
なんと IT に強い弁護士と謳いながら 2ch のスレッドを立てる方法を知らず批判要望板で「情報開示を求めるスレを立ててほしい」と他力本願の書き込みをし、それを名無しから説教されていた事が発覚。
なんＪ民は唐澤貴洋を弄り始めるが、Ｈがメインの話題なので唐澤貴洋の話題はサブ的なものであった。
その流れは翌日の３月 30 日に一気に変わる事となる。

唐澤貴洋が法律事務所の公式 Twitter アカウントでアイドルを多数フォローしていることが発覚、これだけならまだ問題はなかったが唐澤貴洋は対応を間違えてしまう。
なんＪで指摘する書き込みがなされた五分後にTwitterアカウントのツイートを非公開（所謂鍵アカウント、鍵垢）にしてしまい、なん Ｊ を監視していることがバレて唐澤貴洋を弄る流れが加速。
H の話題はそっちのけになり、唐澤貴洋の話題一色に染まるのだった。

なん Ｊ では唐澤貴洋を揶揄やネタにするスレッドが流行し始め、H よりも唐澤貴洋の方が有名になったというようなスレッドも立つほどであった。
そんな一般人から見たらめちゃくちゃ不穏かつ不謹慎なんＪだが、H 特定や唐澤貴洋降臨の時の騒ぎよう比較すると落ち着きを取り戻していると言える。
そんな状況の中で唐澤貴洋から開示されたものの一切気にしない所謂「無敵の人」思考の過激派なんＪ民も出現していた。
しかし、ネタにするスレッドが増える一方で唐澤貴洋をまっとうに評価しようとするスレッドも増えていた。
「H の炎上に巻き込まれただけ」といった意見や「慶應義塾大学や早稲田大学大学院に在籍していたのだから確実な努力家」という好意的な意見もあった。
プロフィールに弟を亡くしていること、それが弁護士の道に進むきっかけであったことを書いていたためなんＪ民からは好意的に見られていた。
この時のなん Ｊ での唐澤貴洋の扱いは「普通の弁護士」であった、その為唐澤貴洋の話題は減り始めていく。
しかし、一つのきっかけによって事態は一転する。

チキンレース、開幕

2012 年 4 月 17 日、ある一つのサイトがなんＪ内で話題になっていた。そのサイトの名前は「遊戯王カードジェネレーター」。
コナミのトレーディングカードゲーム「遊戯王」のカードを画像と文字さえあれば手軽に作れる非公式サイトである。
手軽に作れるという点がなん Ｊ 民に受け、野球関連のカードが作られ始めた。その話題っぷりは遊戯王カードジェネレーターのランキングをなん Ｊ 民の作ったカードがかなりの数占めるほどだった。
これに対し、遊戯王カードジェネレーターの管理人である JEX 氏は「面白いからよしとしますw」と容認の姿勢を見せていた。
しかし唐澤貴洋をネタにするカードがランキング 2 位に入ってしまっていた。
この時唐澤貴洋の話題は下火となっていたこともあり話題にはならなかったが、火種となってしまう。
4 月 19 日、唐澤貴洋のカードが管理人 JEX によって削除される。削除の原因はなんと唐澤貴洋が著作権侵害を申告した為だという。
当然なん Ｊ では唐澤貴洋の話題で大盛り上がり、なんと依頼人である H のカードは削除せずに自分のカードだけを削除した点から批判されてしまう。
沈静化を見せていた唐澤貴洋の話題は唐澤貴洋自身が出した削除依頼によって再燃して

しまう。
JEX は唐澤貴洋の要望で唐澤貴洋のカードを作成してはいけないというルールを制定。
もしもカードが投稿された場合、予告なしに削除すると警告した。だが少しおかしなルールが追加されている事になんＪ民は気付く。
それは「唐澤様個人を誹謗中傷・または過度に礼賛したり神格化するような内容のカードを投稿してはいけない」というルールである。過度な神格化というワードはなんＪ民に大ウケ、更に盛り上がってしまった。
唐澤貴洋を誹謗中傷する動きは再燃、なん Ｊ のあちこちで唐澤貴洋に関するスレッドが立ちまくる。唐澤貴洋の似顔絵を使用するのが著作権侵害になるのだったら、唐澤貴洋の似顔絵の AA を作ってしまえば問題ないと唐澤貴洋の AA が多く作成される。
唐澤貴洋をネタにしたスレッドが遊戯王カードジェネレーターの件で一気に増えてしまっていた。
そんな中、JEX 側に動きがあった。警告通り、唐澤貴洋をネタにしたカードを削除し新たなルールを制定するという。
「『KRSW 弁護士』といった名称のカードを投稿する場合は、架空の人物であることを明確にしなければならない」というルールが追加された。
しかし、JEX の文章の「KRSW の部分に『クロサワ』などの読み仮名を付けたりして、別の無関係の弁護人である事の証明もしていないので削除対象とした」という部分をなん Ｊ 民は「KRSW の読みをクロサワ等の読みにすれば好きにカードを作っても OK」という風に解釈してしまった。
そんな唐澤貴洋をバカにしているように見える JEX はなんＪ民の中で好感度が上昇していく。
一方の唐澤貴洋は自らの評価を悪化させる出来事を起こしてしまう。
なんと 7 年前のスレッドに開示請求、2ch の場合 7 年前の IP アドレスログなど既に放棄されており IP 開示などしたところで意味がない行為である。
これによりなんＪ民の唐澤貴洋に対する評価が「無能、悪徳弁護士」という悪いものに変わってしまう。
唐澤貴洋を誹謗中傷するスレッドも前より増え、唐澤貴洋に対する殺害予告や唐澤貴洋に対する「尊師」呼びもこの時から始まっていた。

5 月 23 日、一部のなんＪ民が抱いていた「JEX に削除依頼をしたのは本当に唐澤貴洋なのか？」という疑問が JEX のブログによって解消される。
JEX はブログにて唐澤貴洋が送ったメールの一部を公開し唐澤貴洋自身が送ったものであると証明したのだった。

遊戯王カードジェネレーターに対する削除依頼、7 年前のスレッドに IP 開示請求…
様々な出来事が積み重なり唐澤貴洋の炎上はこうして長引いてしまっていたが、5 月 23 日には唐澤貴洋への誹謗中傷を疎ましがる書き込みも増え唐澤貴洋の炎上も治まるように見えた。
ところが 5 月 24 日、一大事件が起こって…いや「唐澤貴洋自身の手によって」起こされてしまう。

なんと自分自身に対する誹謗中傷の書き込みを IP 開示、これまでは依頼人である H への誹謗中傷を開示請求していたが今回は違う。

なん J 民と直接対決する事に決めた唐澤貴洋に対して、IP 開示に対する恐怖が薄れてきていたなん J 民は大いに盛り上がり面白がる。なお意味の無い開示に走った理由はプロバイダーと裁判せずに不正に個人情報を入手しようとしていた事を NHK の番組『逆転人生』にて本人が愚痴っていた為唐澤貴洋の非常識さを後押しするエピソードとなっている。

唐澤貴洋が小学生並みの罵倒やからかいに開示請求していた事から炎上は更に加速、また開示請求の基準も不明瞭で雑であり全く関係の無いレスも開示請求していた為、この時の大量開示は「無差別開示」と呼称されている。それに加えて PDF が歪んでいた事もあり仕事が雑だとなん J 民に見られたのだ。

唐澤貴洋関連のスレッドは無差別開示を境に増加していく事になる。

唐澤貴洋の炎上がなん J で盛り上がる中、NHK 制作のドキュメンタリー番組「NHK スペシャル 未解決事件 File.02 オウム真理教」が放送される。

◆きっと本物の尊師は相当困惑したに違いない（※イメージ図です）

番組内でオウム真理教が起こした事件である「坂本弁護士一家殺害事件」が取り上げられ、なん J のオウム真理教スレッドでは弁護士繋がりで唐澤貴洋を連想する書き込みが多々あった。

番組の放送によってなん J では空前のオウム真理教ブームが発生し、唐澤貴洋の炎上とオ

ウム真理教を結び付ける動きが活発化。
唐澤貴洋に「尊師」という渾名がつけられ、これは現在も使用されている。

無差別開示を切欠として唐澤貴洋にいろいろな設定が付け加えられていった。
「核兵器保有」や脱糞が含まれた書き込みを多く開示していた事から「青春時代に脱糞をしてしまっていた、今でもよく脱糞する」という設定を付け加えられていってしまう。

無差別開示により唐澤貴洋の一挙手一投足に注目が集まり、彼が行う普通の IP 開示業務にも視線が集まっていた。
そんな中、奇妙な書き込みが相次いでなされる。
唐澤貴洋が削除依頼や開示請求をしようとすると、謎の人物「ヤーマン」が「駄目です」と否定しに来るのだ。
ヤーマンという独特な名前と「駄目です」という極めてシンプルな否定の言葉のシュールさも相まってなんＪで大受けした。

2012 年 6 月 12 日、JEX が新たなルールと共に衝撃的な文言を公開したのだった。
「意図的な検索エンジン操作を禁止する」というルールを追加した、この意図的な検索エンジン操作はサジェスト汚染と呼称される。
なんと JEX はこのサジェスト汚染の効率的な方法を意図的かは分からないがルール追加と共に公開してしまっている。
この効率的なサジェスト汚染の方法をなん Ｊ 民が悪用しないはずがない、サジェスト汚染はなんＪ民に浸透しなんＪ民の嫌がらせ技術は向上してしまった。
なんＪ民はこの件から勝手に JEX を「なんＪのプロメテウス」ともてはやしている。

2012 年 6 月 15 日、サジェスト汚染を身につけたなんＪ民の前に「その時」がやってくる。
後に「第二次無差別開示」と呼ばれる唐澤貴洋による自分自身への誹謗中傷の書き込みの大量開示請求が開始。
既に一回目の無差別開示を乗り越えウイルスや細菌のように開示耐性を身につけたなん Ｊ民は完全にお祭り気分であった。
しかもリアルタイムで唐澤貴洋による無差別開示がなされている為、前回の無差別開示より盛り上がってしまう。
実況スレッドの盛り上がりはまさしく最高潮、はしゃぎまくるなんＪ民。
唐澤貴洋によって開示請求された書き込みは 71 にも及んだ。

第二次無差別開示が一旦落ち着いた 16 日、なん Ｊ 民が作り出した AKB48 の元メンバーの元彼氏が H であるというデマが H の卒業アルバム写真と共に X(旧 Twitter)上で拡散されるという事件が発生してしまう、これはなんＪや 2ch の中でしか影響がなかった H と唐澤貴洋の炎上騒動が Twitter という外の世界に影響を及ぼす初の事件であった。

2012 年 6 月 17 日、デマ拡散事件でなんＪが盛り上がる中、衝撃の一報がなんＪを駆け巡った。

なんとログの消失によって第二次無差別開示の開示請求は全て失敗に終わったという。開示全失敗という前代未聞の事態になんＪは爆笑の渦と化したのだった。
二回の無差別開示を乗り越えたなん Ｊ 民は唐澤貴洋を完全に見下し、誹謗中傷は前より増加。
流石の唐澤貴洋も、開示請求がここまで失敗したとなるともうなんＪから手を引く事に…ならなかったのだ。
第二次無差別開示から 5 日後、第三次無差別開示が勃発してしまう。
無差別開示が二回行われた為、唐澤貴洋がなんＪのネタとして定着していたこともあり、第三次無差別開示時のなんＪ民は落ち着きながら唐澤貴洋をバカにしていた。
とはいっても唐澤貴洋による IP 開示を実況するスレッドは非常に盛り上がっていた。
そのスレッドで特に話題になったのが島根君という人物である。
唐澤貴洋が開示した書き込みのうち、5 分の 1 ほど島根の同一 IP であり、その同一 IP の人物を「島根君」となんＪ民が呼び始めた。
開示された書き込みには東京大学の IP から書き込まれたものもあったため、「天下の東大生がくだらない誹謗中傷をするのか」とスレで話題となった。

唐澤貴洋による三回の無差別開示によって IP 開示は無害という事を身に染みて知ったなん Ｊ 民の間に「IP 開示されたい」「IP 開示されることはステータス」という不穏な考えが浸透し始める。
そんななん Ｊ 民は次々と唐澤貴洋をバカにするスレッドを立て始め、唐澤貴洋の弟をネタにする不謹慎なスレッドも立てられてしまっていた。
立て続けに起こった無差別開示などの燃料投下はなん Ｊ 民を刺激し炎上を激化させていた、これに気づいたのか唐澤貴洋は第三次無差別開示以降無差別開示をやめてしまう。
ステータスや自己承認欲求の為に開示を欲していたなんＪ民に危険な兆候が現れ始める、それは「開示中毒」である。
唐澤貴洋による開示を求めてなん Ｊ 民は誹謗中傷をエスカレート。過熱した欲望は、遂に危険な領域へと突入する。

ついに唐澤貴洋に対する殺害予告が為されてしまったのである。今までの誹謗中傷は不謹慎ネタや小学生並の悪口で収まっていたが、ついに実害を仄めかす書き込みをされてしまったのだ。
流石のなんＪ民もこれには驚きの声を上げざるをえない。この殺害予告をした者は自ら IP を開示しており、その IP の文字列に「dion」が含まれていた為 dion 君と呼ばれるようになる。
殺害予告が為された翌日、美容整形外科の依頼で唐澤貴洋は風評被害の書き込みを開示請求。
開示に飢えていたなん Ｊ 民は批判要望板の唐澤貴洋が立てた「情報開示を求めるスレ」に突撃、なんＪ民の書き込みでスレッドは埋め尽くされてしまった。普通に業務妨害である。
この頃になると唐澤貴洋の渾名として尊師が完全に定着していた、ちなみにこの開示請求は失敗してしまっている。
唐澤貴洋の開示請求から二日後、2ch 運営によって唐澤貴洋をネタにしたスレッドが名誉毀損だとして「開示予告」される。

衝撃的なのはこれが大崎警察署からの要請でなされたものだという事である、弁護士に続いて警察の登場になんＪ民は盛り上がる。
　当時、唐澤貴洋が構えていた法律事務所は五反田にあり大崎警察署は五反田を管轄していたためなんＪ民は唐澤貴洋が警察に泣きついたと想像した。
　しかし警察が騒動に介入したからといって書き込んだ者が直ぐ逮捕されるということはない、警察もそこまで暇ではないのでこの件は 2ch 運営に任せることになる。
　2ch には「七日間ルール専用スレッド」というスレが立てられており、警察が誹謗中傷や名誉毀損などの書き込みが行われたスレッドを提示し七日以内に有効な反論が無い場合、書き込んだ本人の IP を開示する制度があるのだ。
　要約すれば「反省すれば IP 開示はしない」という極めて寛大なルールである。

　七日間ルールスレッドに IP を自ら開示しながら開示予告された本人が現れ弁明を始める。

「なん Ｊ で見かけた唐澤という人物の情報を基に想像しただけで、唐澤が実在の人物かはわからない。なんＪで殺人を犯したという書き込みを見てそう認識しただけだし、実在したとしてもどこ所属とは書いてないので名誉毀損ではない。」
という、まぁまぁ無茶な弁明を書き込んだ。
　すると、この弁明に対し反論する名無しが現れる。
「名誉毀損をしたのは明白。こんな後付けの言い訳がまかり通ればなん Ｊ は何でもありの無法地帯になる。屁理屈の域を出ない。」
　その書き込みにまた別の名無しが反論する。
「名誉毀損をした、というのが何故明白なのか？曖昧な根拠で被開示者のプライバシーを侵害するのも何でもありの無法地帯なのではないか？屁理屈という言葉を使っていることからもわかるように、この反論はただの感情論である。」

　結局、2ch 運営は反論が出たとして開示を取り下げたのだった。
　なんＪでもこの七日間ルールスレッドでの反論の応酬は話題となった、特に弁明に対して反論をした書き込みに「唐澤貴洋が書き込んだのではないか」という疑惑が浮上する。
　書き込みでは「はっきり言って」という言葉が多数使用されていて何とも言えない文章だった事や、見事なまでに 2ch 運営からスルーされていたのがなん Ｊ 民から好評を博し唐澤貴洋が書き込んだという方がなん Ｊ 民的には面白い為、唐澤貴洋がこの書き込みを行ったという事にされた。

　警察を経由した唐澤貴洋の IP 開示も失敗に終わってしまい、第三次無差別開示にて話題となった島根君や初の唐澤貴洋への殺害予告をして開示された dion 君も活動を続けていたが、8 月 9 日に dion 君はプロバイダーから警告文が来た事をスレッドを立てて報告した。
　8 月には、後の恒心教で「827 事件」と呼称される H 疑惑の ID が出現した事により H の書き込み傾向や口癖などを考察する動きが活発となり、続いて 9 月にも H のボウリング姿や中学時代の写真が流出。
　H の話題で湧いているなん Ｊ に、もう一つの火種が持ち込まれる事になる。島根君が立てた誹謗中傷スレッドにとあるツイートの URL が貼られ、それが火種となるのだった。

コスプレイヤー参戦

それは当時有名だったコスプレイヤー「U」である。

彼女は同人イベントで問題を起こしており、それに関する誹謗中傷の件で弁護士に相談、その中で白羽の矢が立ったのが唐澤貴洋だったのである。

数多くいる弁護士の中からあえて唐澤貴洋を選んだ理由について、炎上によって世間の注目を集める「炎上商法」というのが有力であるが本人は否定している。

こうしてなんＪで話題になってから約10日後、彼女は自分のファンに向けてニコニコ生放送で配信を始めた。

当然この時なん Ｊ 民は、唐澤貴洋と関わりを持った彼女に真相を聞くため突撃を始めると驚きの事実が判明する事となる。

Ｕによると唐澤貴洋は「ぽっちゃりしていた」と返答。

この当時、唐澤貴洋の外見の情報はイラスト以外全く出ていないという、弁護士としては異様な状況であり、唐澤貴洋に過度な礼賛、神格化を行うなん Ｊ 民にとっては、ぽっちゃりしているというだけの情報ですら大収穫だったのである。

この翌日（2012 年 9 月 30 日）、Twitter 上においてさらに唐澤貴洋についての情報を投下することになる。

「個人的な意見なんであれなんですけど、唐澤先生を中傷するとすげえヤバそうな感じします。

なのでおせっかいかもしれませんが、中傷ワードを含めておもしろがり過ぎないほうがいいんじゃないかあって感じです。」

唐澤貴洋を中傷すると何がどう「ヤバい」のか具体的な説明はなかったが、直に対面した者の貴重な証言であったためなんＪ民は興味津々であった。

「唐澤貴洋」というコンテンツへ

唐澤貴洋のネタは尽きず、9 月 26 日にはインターネット電話帳である住所でポン!を使い唐澤貴洋の実家が特定されてしまう。

10 月 2 日には初代唐澤貴洋掲示板が設立されたが、この時は唐澤貴洋やＨの話題専用の掲示板の需要が無く注目されなかったが後の恒心教の文化の土台となるものであった。

名称や TOP 画像は次第に大喜利色が強くなり、「イスラム国日本支部掲示板」や後に取り上げる「麻原正晃掲示板」といった、明らかに不穏なネタも見受けられた。

◆こんな如何にも怪しい掲示板が運営による強制閉鎖から逃れたという事実

同月 4 日には絶叫脱糞というネタが生まれる。
これは大いになんＪ民に受け、コピペ化もされなんＪや恒心教の文化に多大な影響を残した Twitter(現 X)や TikTok などの SNS でもこのネタは見受けられる程に影響力は大きい。
しかし、このネタは後々全てを巻き込んだ紛争の火種となってしまう。

10 月 14 日、前述の遊戯王カードジェネレーターを思い出させるようなサイトが話題となる。と呼ばれる自動作曲システム Orpheus である。これは嵯峨山茂樹教授率いる東京大学工学部計数工学科システム情報第一研究室が開発した自動作曲システム、およびサービスである。
歌詞を入力し、構成やリズム、和声(コード)進行などの設定を行うとコンピューターが自動で歌詞に合った曲をつけてくれる。

ボタン一つで作曲できる手軽さ、できた曲を実際に聴くことができるだけでなく MP3 や MIDI や楽譜をダウンロードできる便利さ、また設定次第で様々な雰囲気・クオリティの曲を作ることができる奥深さが特徴で、なんＪに存在が知られて以来一世を風靡するおもちゃとなったのである。
それを用いて同日に唐澤貴洋をネタにした初の楽曲、後に「パカソン」と呼ばれるジャンルの曲である「優しい世界」が投稿された。
なん Ｊ はかつて大沢たかおという俳優の朗読ツールが流行った時期があり、似たようなものである Orpheus も直ぐに受け入れられ、大量にパカソンが作られ始める。
その勢いは Orpheus のサーバーをダウンさせてしまうほどの勢いであったが、作成されたパカソンは案の定というべきか全て削除されてしまった。
しかしなんＪ民はあまりにも自分勝手で、削除されたにも関わらず次々とパカソンを作成する始末。
パカソンが公開されるスピードが削除を上回るというあまりにも奇妙な事態に Orpheus 開発チームのリーダーである嵯峨山茂樹教授は一計を案じる。

パカソンを全て特定コミュニティというページへと隔離したのだ。削除を上回る速度で公開されるならば、そもそも削除しなければいい。

この賢い対応にはなん J 民も口をそろえて有能と大合唱、遊戯王カードジェネレーターの管理人 JEX を想起させたのだった。

嵯峨山教授は更に寛大な姿勢を見せ始めた、削除されたパカソンである「優しい世界」を復活させ尚且つ高評価の★マークをつけたのである。

後に一部の心無い教徒らによって誹謗中傷等を受けた教授は態度を大きく硬化させる事になるが、この時期において寛容な姿勢を見せた事により、なん J は盛り上がりを見せる事となった。

Orpheus がなん J で比較的穏健な盛り上がりを見せる中、唐澤貴洋に対する殺害予告といった過激な誹謗中傷も盛り上がりを見せていた。

10 月 31 日には定期的に立てられる唐澤貴洋に対する殺害予告スレッドに放火予告と爆破予告が書き込まれ、なんとスレッドが立てられてから 47 分という驚異のスピードで書き込み上限まで達した。

翌日の 11 月 1 日、大犯罪者デグニキというユーザーにより「ついに Orpheus からベストアルバムが発売される模様」という Orpheus アルバムがニコニコ動画に初めて投稿される。

収録曲は全 13 曲だが、パカソンだけではなく他のなん J ネタや淫夢（インターネット上で有名な日本製ゲイポルノ）ネタも含まれていた為、ニコニコ動画を拠点とする淫夢民に唐澤貴洋の存在を知らしめる事に成功した。

しかし、31 日のなん J 民による殺害、放火、爆破予告が原因で 11 月 7 日に大崎警察署がなん J 民の大量開示を開始。

だが大崎警察署の大量開示もなん J 民には一切効かず、むしろ 11 月 8 日に沖縄くん（IP アドレスが沖縄だった為なん J 民からそう呼ばれた）を焚きつけてしまい沖縄くんは唐澤貴洋に対する 2000 回以上の殺害予告をしてしまう。

11 月 10 日にはそれを上回る 4977 回の殺害予告が為されており、なん J において唐澤貴洋に対する殺害予告が「普通」となってしまった事を物語っていた。

「掲示板」という文化へ

唐澤貴洋掲示板の成立

恒心教という文化は当初はなん J のみの文化であったが、先述した大規模な規制に伴い外部掲示板サイトで唐澤と H の話題をするようになっていった。これが現代まで続く唐澤貴洋掲示板（以後カラケーと表記）の成り立ちである。

この試みは 2 ちゃんねるの運営という手を離れ、規制や削除を自らの手で行えるようになり、より「攻撃する側」にとって話しやすい文化が形成されていった。最初はひっそりと設立されたカラケーだったが、大規模規制が発生した頃に気兼ねなく話せるといった理由で唐澤貴洋と H について語りたい層が一斉に移住した。

鎖国時代

こうして 2 ちゃんねるとは独立した文化となったカラケーだが、当初から無関係の人物を本

騒動と無理やり関連付けて炎上させようとする層が一定数存在した。こうした勢力の事を炎上依頼と呼び、排除の対象としてきた。

しかし、炎上依頼が急増した時期が存在した。それは H の存在を知らしめる行為の一貫としてまとめブログを利用出来ないかと模索していた時に発生した。

とあるまとめブログが恒心教徒が仕掛けた本騒動を宣伝するために作られたトラップに気づかず、そのまま転載してしまった。このまとめブログを調査した結果、運営者が特定されてしまうといった事件が存在した。

当時から 2 ちゃんねる全体はまとめブログを「他人の努力を奪って稼ぐ愚か者」として住民から敵対視されており、なん J もその例外ではなかった。

しかし本事件により運営者を特定出来てしまった事から、カラケーを飛び出して 2 ちゃんねるでは大きな騒動（祭り）となった。そうしてカラケーにも「コイツを燃やせるのではないか」という書き込みが増え、混乱が生じる事となった。

そのような事件があり、当時のメインカラケーが運営により強制閉鎖された事を機に、外部に URL を掲載しないといったルールで運用されていたカラケーにメインカラケーの機能を移転する事になった。この考えは閉鎖主義と呼ばれている。

しかし完全な鎖国をしていた訳ではない。この当時、騒動のまとめサイトとして初代唐澤貴洋 Wiki が ShoutWiki にて設立された。この Wiki は何度か移転して現在も続いており、本書は Wiki の記述も参考としている。

唐澤貴洋 Wiki は、恒心教ウィキサイトとして、鯉色マッリ（以下、初代管理人）によって 2014 年 3 月 27 日に創設された。

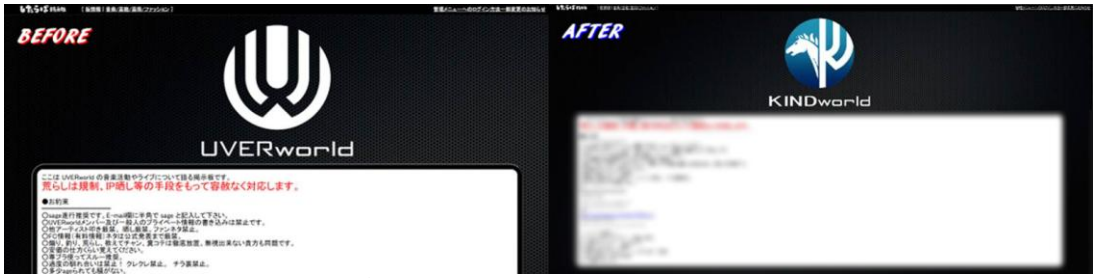
初代管理人は、唐澤貴洋 Wiki の創設の理由として、調べもせず色々と質問をしてきたり恒心教の意にそぐわない行動をする教徒の増加を挙げ、そのような者たちに情報を与えて恒心教徒へと改宗させるためとしている。当時は閉鎖主義の動きもあったものの、概ね好意的に受け止められた。

こうしてなん J から恒心教が独立し、これからの掲示板や Wiki の運営の基礎が作られていくのであった。

乗っ取り、そして開国

そうして閉鎖主義を貫いてきた恒心教だったが、閉鎖主義が終わるターニングポイントが発生する。当時 UVERworld のファンが起こした騒動がきっかけとなり、なん J 民と 2 ちゃんねるの UVERworld のファンは敵対関係にあった。その最中、事件が起こる。

なんと、恒心教徒は UVERworld ファンが運用していた UVERworld BBS を乗っ取ってしまった。参考画像を見ての通り、意図的に侵入前の雰囲気を部分的に残している。



◆衝撃!!喜劇的ビフォーアフター

乗っ取った人物はこの掲示板をカラケーとして作り直し、当時の恒心教徒が集結した。事件は大々的に広まり、メインカラケーとなる事で閉鎖主義は終わりを迎えた。

黄金時代

2014 年 11 月 17 日、突如として UVERworld BBS が閉鎖されるも、破竹の勢いでネット上における勢力を拡大していく恒心教。

閉鎖の約 4 ヶ月前の 2014 年 7 月 22 日に「サンラクシャカ」と名乗る人物がしたらば掲示板で設立した麻原彰晃掲示板（通称:アサケー）が彼ら恒心教徒の目に留まり、ここをメインカラケーとした事で恒心教のコンテンツは全盛期を迎える事となる。

◆2015 年当時の盛況ぶりを纏めた動画が有志によって作成されている

0Chiaki と名乗る人物がアフィリエイト等で収益を得るまとめサイトに日本初のランサムウェアである「カランサムウェア」を仕掛け大騒動を起こしたり、Google マップ上で「ちばけんま」「恒心教」等の名前の架空の施設が登録されるなどのいたずら行為がなされたり、安藤良太による過激なけんま[1]配信が話題になるなど過激派の暗躍、事務所一派によるコミックマーケットへの進出の失敗、唐澤貴洋の顔写真がネットに公開されるなどといった事が起こっていった。

また、Altail と名乗る自分が MMD（MikuMikuDance）上で「尊師 MMD」と呼ばれる唐澤弁護士を模した 3D モデルを配布した。これを利用した動画がニコニコ動画にアップされ、多数の非教徒が注目する一大イベントの第 14 回 MMD 杯で綜合優勝を飾るなど、2015 年 11 月 17 日に封鎖されるまで、とにかく話題に事欠かなかった時代でもあった。

麻原彰晃掲示板の影響で、恒心教はオウム真理教の用語を多数取り込むようになっていった。削除や逮捕などをポアと呼ぶようになったのもちょうどこの時期からである。

この時期は恒心教の黄金時代と呼ばれているが、大勢の恒心教徒が集まった事により当時管理人を務めていたサンラクシャカの管理能力を超えていた上に教徒間の内部対立が激化。

これ以降は話題ごとに掲示板を「サブカラケー」と呼ばれる掲示板に話題を分化させ、住み分けが進んでいく事となった。

[1] H の住所に由来する用語で現地に赴くという意味を持つ恒心教の用語

バブル崩壊と原理主義の台頭、連続爆破予告事件

事務所騒動の終結、したらば運営によるメインカラケーの連続封鎖で、アサケーからの惰性で続いてきた恒心教バブルは終焉を迎えた。外部への布教を拡大した結果混乱を招いた 2015 年の反省からか、2016 年には長谷川亮太・唐澤貴洋が中心であることを強調する原理主義の傾向を強めた。

特に 5 月 31 日のサイモントン療法協会被害者の会掲示板(通称サヒケー)への移住は原理主義の流れを決定付けた。サヒケーは念願の防弾ホスティング[2]掲示板であり、危うい書き込みをしても開示されないためアングラ傾向の強い原理主義にはもってこいの場所だったのである。

原理主義においては事実追求路線が重視され多くの成果があり、唐澤貴洋・山岡裕明の誕生日開示、唐澤貴洋の実家の墓である河野家の墓が開示による唐澤貴洋の弟の唐澤厚史の実在確認、唐澤貴洋の元同僚小西一郎失踪の追求などが成し遂げられた。

また事実追求路線と合わせて実害も重視され、唐澤貴洋の実家の墓が汚損されたり、当時使っていたオフィスビルの事務所のドアに落書きするなど過激ないたずらが行われた。

一方、DDoS 攻撃を受けたり、12 月 3 日にサヒケーと唐澤貴洋 Wiki の両方を管理していた管理人であるメガ雷龍が特定され掲示板と Wiki を封鎖するなど、自前サーバーならではの問題も起きた。

しかし恒心教にとっては念願だった法務執行機関からの要請を受け付ける事が無いサーバーへの移住というメリットは大きく、ここからサーバーに支払う資金と閉鎖耐性の駆け引きが始まった。これは今も続く問題であり、資金難により閉鎖されたカラケーもいくつか存在する。

当然匿名性を担保するために現金などを使わず、暗号通貨のみで全てを済ませているため昨今の暗号通貨対策法との戦いが続いている。もはや犯罪組織としての側面も持ってしまった恒心教らしい問題だろう。

唐澤のメディア進出

そんな恒心教徒にも衝撃が走る事態が起こる。今までメディアに出る事が少なかった唐澤貴洋が公の場に現れたのだ。

2016 年 10 月 21 日、その日は鳥取中部地震が発生し、その件がニュースで取り上げられていた。しかし事件は起こるのだ。

なんと、NHK のニュース番組に唐澤貴洋が出演した。今まで昔の写真や声しか明らかになっておらず、現在どのような姿をしているのかという情報が一切無かった中、カメラの前に姿を現したのだった。

今までベールに包まれてきた唐澤貴洋の実態が明らかとなり、サヒケー・なん J・Twitter は一気に沸き立った。この時の勢いは非常にあり、サヒケーをホストしていたサーバーが耐えられないほどだった。なん J でもあっという間にスレッドが 1000 まで埋まり、Twitter でもトレンドとして出てくるほどの盛り上がりを見せた。この時の盛り上がりを上回る勢いは現状他に無く、この時が恒心教最大の盛り上がりだったという見方も出来る。

---

[2] 法務執行機関などによる要望を拒否するサーバー会社

この衝撃は今までの唐澤貴洋のイメージを大きく覆し、非実在系弁護士として扱われていた風潮を一掃した。また、現在の顔と声が明らかになった事から、多数の素材が作られたりした。

また撮影場所が唐澤貴洋の事務所だったのだが、これが後に重大な情報に繋がる。

◆2016 年当時の教徒が描いた、玉音放送の衝撃を後世に伝えるイラスト

唐澤貴洋と関わるというリスク

唐澤貴洋のテレビ出演から 5 ヶ月ほど経った日、カラケーにて唐澤貴洋が絵画のレビューをしたという雑誌の紙面が公開される。当初は同姓同名の別人か、あるいはなりすましかと考えられていたのだが、その直後に公開された写真に注目が集まった。

なんと、その写真に写っていた棚と唐澤貴洋がテレビに出た時に映っていた事務所の棚が一致したのだった。その絵を書いた女性画家の名前は雑誌に書かれていたため、すぐに特定された。

この当時は、唐澤貴洋が登場した直後同様単なる被害者であるとされていた。しかし、彼女の SNS アカウントが発見されるとすぐにその書き込みが全て確認された。それだけで済めば良かったのだが、彼女の書き込みは過激な物があったため掘り下げられてしまった。

そして事件は起こる。とある恒心教徒が彼女のメールボックスにアクセスしてしまった。当然彼女が使っていたパスワードは誰も知らなかったのだが、「パスワードを忘れた時の設定」を公開情報から探り当ててしまった。この手口は本件以前にも何度か使われており、専ら脆弱性とまで称されるほどだった。

メールボックスへの侵入から間もなく、Facebook のアカウントへアクセスされてしまう。そしてそこで恒心教徒は驚愕の事実を目にする事になった。

その女性画家と唐澤貴洋が Facebook でやり取りをしていたのだ。すぐさま全文がカラケ

ーに転載され、カラケー・Twitter・なん J は再び盛り上がりを見せた。このやり取りから改めて唐澤貴洋の文章力やコミュニケーション能力の低さ、更には推敲能力の低さ、ギャラリーストーカー行為に及ぶ悪質性までが浮き彫りとなった。そこにいたのは宗教的発言をするでもなく、弁護士として的確なアドバイスをする人でもなく、ただの「無能」と称されたおっさんの姿であった。

また、メールボックスに侵入出来た事により、住所や電話番号、挙句の果てにはクレジットカードの番号まで公開されてしまった。この事は唐澤貴洋が動き出すきっかけになったと推測されている。

唐澤貴洋によるカラケーへの攻撃

この事件を唐澤貴洋が黙って見ている訳ではなかった。女性画家とのやり取りが公開された翌月、突如として当時のメインカラケーであった法律事務所クロス被害者の会掲示板（以下クヒケーと表記）がアクセス不能となった。当時はクヒケーの管理人が逮捕された、サーバーが故障したなどの憶測もあったが、後にクヒケーの管理人が避難所となっていたカラケーに現れ、事の詳細を公開した。

なんと、クヒケーは唐澤貴洋の抗議によって閉鎖されたという内容だった。唐澤貴洋は Cloudflare 社に抗議のメールを送り、その内容をクヒケーをホストしていた会社にも転送した。

サーバー会社はクヒケーを一時凍結してアクセス出来ないようにしていたため、唐澤貴洋の攻撃に屈したという事実からクヒケーの管理人は契約を解消した。

今まで唐澤貴洋が明確にカラケーに攻撃したという前例は無く、唐澤貴洋が明確に恒心教に敵意を持っていると同時に唐澤貴洋がカラケーを監視しているという事実も明らかとなった。

「なりすまし」が世間を騒がせる

恒心教が成立して 5 年、ネット上では唐澤貴洋と H の名前は一部で知れ渡っていた。ただし、知られているのは Twitter などの SNS で活動している若年層であり、他の層にはあまり知れ渡っていなかった。そんな最中、唐澤貴洋の名が一気に広まる事件が発生する。

2017 年にアナウンサーの小林麻央が亡くなったのだが、メディアが報じる前に Twitter でとある書き込みがされる。それは小林麻央が唐澤貴洋の姪であり、親族として亡くなったと発表した書き込みである。

当然唐澤貴洋と小林麻央には何の血縁関係も無く、唐澤貴洋を知る人にとってはただのなりすましと分かっていた。しかし、ここで重要なのは唐澤貴洋が知られているのは未だ一部の層だけであるという事だ。これがどういう事かと言うと、それ以外の人にはなりすましの内容が事実であると捉えられてしまう事だ。ただのなりすましなら良かったものの、問題は唐澤貴洋が実在人物でなおかつ弁護士としての籍を持っているという事だ。

このなりすましアカウントには唐澤貴洋の本物の情報を記載していた。本物の唐澤貴洋の事務所名、事務所の住所、事務所のホームページ URL などだ。この時唐澤貴洋はまだ SNS 活動を再開する前であり、本人が使っていたアカウントも以前の事務所の名前のまま放置されていた。

そういった事もあり、唐澤貴洋が新しくアカウントを取得したと言えばある程度騙せてしま

う状態になっていた。そして恒心教徒はそれを利用した。
　そうして恒心教徒が書き込んだ内容が SNS で広まった。SNS は怖いもので、一度「バズる」と中々取り返しのつかない状態になってしまう。この書き込みは SNS の垣根を超えて大きく広がり、ネット上だけでなく新聞社までもが騙されてしまった。
　弁護士が秘密事項を守れないのはどういった事か、そういった非難が唐澤貴洋に集中する事になる。更に恒心教徒は火に油を注ぐ。過去の唐澤貴洋の発言を真似て倫理観が無い事をアピールしていた。当然これらの発言によりこのアカウントは大炎上。だが、これこそが恒心教徒の狙いだった。
　当然これらの攻撃の矛先は「本物の」唐澤貴洋に向かう。唐澤貴洋のホームページへアクセスが殺到しホームページのサーバーが落ちたり、事務所の電話がひっきりなしに鳴り続けるといった事態が発生した。
　更に、騙された新聞社が本当に唐澤貴洋に取材するといった事まで起こった。これにより、唐澤貴洋の名前が新聞にまで出る事態となった。
　これを受けて唐澤貴洋の事務所のホームページには関係ないという旨が書かれた告知の掲載や、弁護士会が対応を要求された。

　本事件の犯人を特定しようと警察は躍起になってとある恒心教徒を取り調べしたのだが、実はその恒心教徒は実行犯ではなかった。というのも、この事件が起こってから当該アカウントのメールアドレス・パスワードはカラケーにて公開されており、誰でもアクセス出来るようになっていた。
　そしてとある恒心教徒が特に匿名化もせずログインしてしまった。警察はこれを実行犯だと思い込み、取り調べをした。
　この時警察サイドはその恒心教徒が言った犯人は匿名化しているという当然の事を犯人しか知り得ない情報だとして決めつけたという記録が残っている。だが彼はその後開示されてしまったが、刑事告訴されたという記録は現状残っていない。

外部からの荒らしとの紛争

◆何がやめられないのかは言わないお約束

　2017 年からメインカラケーとなっていたクヒケーは、4 月に唐澤貴洋本人からの抗議によって陥落する。これにより、教徒側はメインカラケー閉鎖という損害を被ったものの、唐澤自身がカラケーの監視を行っていたという事実、そして「evil imperial lawyer」という英訳文を

ネタとして獲得した。

この件が元となって、次代のメインカラケーとして法律事務所クロス掲示板（エビケー）が設立される。名前の由来はディレクトリ名が evil であり、これを日本語ローマ字読みした物となっている。

エビケーは外国サーバー上に建てられた防弾カラケーという事もあり、外部からの攻撃にも強く安定していたが、この場所に果敢に突撃してくる者たちがいた。

ハセカラキッズ速報管理人こと「豆大福」（教徒による通称）と、昨年に増して狂い出した唐澤貴洋の元依頼人 T である。彼らの荒らしの手法はワンパターンだった為、教徒は彼らの書き込みを容易に見破る事ができた。

それでも彼らのカラケー荒らしに費やした手間と時間は常軌を逸したレベルであった。半年近くという長い期間にわたって定型文のコピペを貼り付け続け、ハセカラ騒動と全く関連性の無い第三者への執拗な誹謗中傷を続ける様に、多くの教徒は呆れながらも彼らの精神状態がみるみる悪化していく様子に戦慄した。

メディア露出など、唐澤貴洋が公の場に出る回数が増えた 2018 年には、二度に渡る事務所移転と法律事務所クロスの解散という歴史的事件も起こっていた。

2018 年 4 月 12 日、法律事務所クロスが高會堂ビルへ三度目の聖遷をしていたことが発覚、そして 10 月 2 日には、法律事務所クロスの公式サイトから所属弁護士の山岡裕明と山本祥平の名前が消え、所属弁護士が唐澤貴洋ただ一人になっているのが発見される。（当時の雑談スレでは「もう弁護士が居ないぞ」と皮肉られた）

その後山本祥平の転属先がニューポート法律事務所、山岡裕明の転属先が八雲法律事務所と判明し、両名が法律事務所クロスから離脱したことが決定的となった。唐澤貴洋も事務所名を法律事務所 Steadiness と改めて三田綱町デュープレックス R's へ実に四度目の移転を果たし、法律事務所クロスは解散した。

愛すべきトリオと見なされていたクロスメンバーの解散という衝撃もさることながら、一年のうちに二度も事務所移転をするというフットワークの軽さは恒心教徒が唐澤貴洋の持つ資金力の大きさに驚く事となった。

また「Steadiness」が「恒心」という意味を持つ事から唐澤貴洋の恒心という言葉への拘りを感じさせた。

法律事務所クロスについてはその他、JC テクノロジーや海賊版サイトブロッキング問題、山岡裕明による Cloudflare への開示請求など、弁護士業務を行っている痕跡が発見された。また、御尊影を開示されたり唐澤貴洋と山岡裕明の免許証が開示されたりと、教徒による活動も活発に行われており、解散後も山山コンビを標的にした活動は継続して行われている。

またこの時期には唐澤貴洋初の自伝である『炎上弁護士』や NHK 番組『逆転人生』が大きな盛り上がりを見せた、後者の内容は特に酷くとりわけ酷い部分を抜粋すればネット上での書き込みを見つけて通報しただけの唐澤貴洋がハッカー『0Chiaki』を特定したかのように演出した場面や前述した通りプロバイダー裁判を経ずに不正に個人情報を入手しようとしていたのを愚痴る場面等が挙げられるだろう。

数々の恒心やこのような被害に遭いながらもエビケーはメインカラケーとして、翌 2018 年 4 月には麻原彰晃掲示板を超え歴代メインカラケーの最長寿記録を更新し、2019 年 5 月 13 日に閉鎖された。メインカラケーとして運用されていた期間はちょうど 2 年で、当時としては最長であった。

唐澤貴洋、自伝を出版する

唐澤貴洋の過去という物は今まで断片的にしか明らかになっていなかった。例えば弟の死因、無差別に開示請求をした事の意図、学生時代などだ。そういった部分は一切の情報が明かされておらず、謎に包まれていた。

そんな中で 2018 年 11 月 6 日、Amazon の商品ページから唐澤貴洋が本を出版する事が判明した。そのタイトルは「炎上弁護士」、まさに唐澤貴洋そのものであった。

筆者が唐澤貴洋で、どこまで意味のある文章として成立するのか、あるいは壊滅的な文章で成立しているのかといった通常の本とは違った要素を求められていた。無論内容も期待されていたのだが、今まで SNS などで唐澤貴洋が直接書いた文章の内容が悲惨だったため、このような状態になっている。

そうして販売延期があったものの、2018 年 12 月 13 日に日本実業出版社から炎上弁護士が出版された。

本の内容は法律書[3]ではあるが、恒心教の教祖が書いたという体裁で宗教書（聖書・聖典）として扱われた。恒心教においては唐澤貴洋がアンチイスラムであるという設定と絡めてこの本は「カーラン」「恒ラン」などと現在でも呼ばれている。

肝心の内容であるが、販売されてすぐにネット上に全文が公開される事となった。販売開始から 2 日後の出来事である。

内容を読んでいくと、様々な事が明らかとなった。例えば以前唐澤貴洋が住んでいた家が特定されたのだが、その住所に唐澤貴洋が住んでいた事が確実となったり、弟の死因は首吊り自殺などだった。また、書いてある内容と普段の唐澤貴洋の行動が矛盾していたり、以前所属していた法律事務所が廃業している（実際は現存している）などといった事も記載されていた。

こうした事から、唐澤貴洋は自分が悪いとは思わず、むしろ恒心教徒が全て悪いといった思考が垣間見える。確かに恒心教徒が悪い部分もあるのだが、ここまで唐澤貴洋が長期的に炎上して攻撃がされている理由として、唐澤貴洋が反応したり過去の過ちを認めない部分も大きい。また、仕事もいい加減であったり悪名が通り過ぎてまともな依頼人が無いなどの本人の誠実さが足りていない部分も存在する。

文章に関してだが、出版社の校正が入っているため Facebook や Twitter のような壊滅的な文章は少なく、文章そのものの面白みは無かった。

警察までもが被害者に

恒心教は布教と称する行動の一環としてハッキングした犯人が唐澤貴洋であるという文章を載せるなどといった行為をしていたのだが、2019 年 1 月 18 日に恒心教徒が新潟県警のサーバーに侵入、唐澤貴洋の似顔絵を設置するといった行為をしていた。

この時はまだ恒心教内部だけで済んでいたのだが、何者かがこの時の脆弱性を用いて 5ちゃんねるに新潟県警のサーバーを経由して書き込む事態が発生した。特に当時騒動となっていた NGT48 のスレッドに荒らし同然の書き込みをしており、すぐさま問題となった。

---

[3] 書店によってはドキュメンタリー扱いの店もあり

最初の書き込みから 2 日後、新潟県警が公式発表をする事態にまで発展したのだった。同日の NHK ニュースでもこの件は報道され、新潟県警経由でエビケーに書き込まれた爆破予告が地上波で放映される事となった。

唐澤貴洋の行動の変化、恒心教の抗争

メディアへの頻出

2019 年 5 月 13 日付けでエビケーが閉鎖した事により、スヴァールバル諸島掲示板（以下スバケー）が正式にメインを引き継ぐ事になった。

長谷川亮太が完全に消息不明になった一方で、唐澤貴洋の方はメディア出演をより活発化させていった。

唐澤貴洋の顔出しが常態化した事については、エビケー時代は比較的楽観的な意見が強かった一方で、この時期から徐々に新たな問題点が幾つか表面化しつつあった。

まず唐澤貴洋によるメディア出演は、自身の落ち度を徹底的に隠すプロパガンダ色の強い物が主であった。

しかし予想以上の回数を重ねて行くにつれて、マスメディアの影響力も相まって、炎上被害者タレントとしての名前ばかりが広がってしまい、却って恒心教サイドが不利になるという懸念が強まり始めた。これは世界一受けたい授業などに出演した時の肩書にも現れているだろう。

とにかくメディアに出る事で検索結果を強引に塗り替え、唐澤貴洋 Wiki の影響力が弱まるという危険性もあった。そんな状況下でとある YouTuber デビューした事で恒心教徒達の不安は更に募っていったのである。

もう一つは恒心教徒側のモチベーションの維持である。実に贅沢な話ではあるが、一時期は唐澤弁護士が明確にアクションを起こす事自体が貴重であり、一つ一つを「恒心[4]」として目一杯噛み締めていたのである。

しかし急に供給量が爆増した事で却ってマンネリ化し、また本人が意図的に面白い事をしようとすると、微妙に滑って興醒めするという悪循環に陥り始めていた。

往年の神秘性が失われていく一方で、マスメディアを用いたプロパガンダだけは確かに進行している…と書けば、当時の恒心教徒達の複雑な心境がある程度は伝わるであろう。

また彼とほぼ同時期に平行して、恒心教内で扱いが大きく変化していった人物で居る。YouTuber の「ゆゆうた」氏である。彼の登場が今までの恒心教が起こしていた「戦争」とも呼ばれる外部との抗争を大きく変える事になった。

終わりなき争いへ

2017 年に「一般男性脱糞シリーズ」の弾き語り動画を投稿した頃は、恒心教内でも数ある動画投稿者の一人という扱いに過ぎず、少なくともこの時点では彼を攻撃する動きは見られなかった。

この頃になると尊師 MMD ブームも落ち着き、芸術路線その物も失速していた時期だった

---

[4] 唐澤貴洋の「更新」と「恒心綜合法律事務所」が融合して生まれた恒心教の用語

事もあり、彼の動画に布教効果を見込み、前向きに捉える者も居たのである。
しかし彼の弾き語り動画の人気が高まっていく一方で、恒心教自体の知名度向上にはあまり貢献する事は無く、MMD ブームの時とは対照的に彼を経由して恒心の門を叩く者は極端に少なかった。
またゆゆうた氏は元ネタが恒心教である事を伏せており、あたかも自身のオリジナルであるかのように振舞い、ちゃっかり収益化はするという構図も問題視され始めた。恒心教自体元来嫌儲思想が強く、恒心教のコンテンツで金稼ぎをしようとするとカラケー・Wiki の維持費のためにする事以外では例外なく迫害されている。
これで明確な布教効果があれば相殺も可能ではあったが、ゆゆうた氏だけが恩恵を傍受する歪な構造が出来上がり、更に数少ないゆゆうた経由の入信者が問題行動を起こした事で更に印象は悪化していった。

358 一般ノルウェー市民 2019/12/01(日) 22:23:04.70 ID:hHr1Kdt20
てかゆゆうたってまだ活動しとんのか
あいつのせいでパカデブの真面目に悪どい面が非ワに伝わりづらいからはよ消え失せてほしいわ

359 一般ノルウェー市民 2019/12/01(日) 22:30:14.92 ID:1dFSAg+RI
例のアレ関係で活動始めたんだろうけど
顔出しでハセカラやシャムネタにするとかロクな目に合わなそう

◆実は 2019 年時点で動向を不安視する声が既に散見されていた

この作品の問題は、恒心教の目的の 1 つに「唐澤貴洋が無能である事を世間に知らしめる」という物があるのだが、ゆゆうた氏の作品は「唐澤貴洋は面白脱糞おじさん」というイメージを植え付け、そういう持ちネタがある芸人のような弁護士という印象を与えかねない物だった。
従来の恒心教もそういった作風の創作があったものの、唐澤貴洋 Wiki に誘導を促すなどといった行為で実はこういう人物でしたという事を教えるという意図が隠されている事が多かった。
しかしゆゆうた氏の場合はそういった意図を一切含んでおらず、唐澤貴洋をネタ化するといった目的が強かった。
また自身の配信で本人とのコラボを望んでおり、更に「唐澤弁護士の株を上げる事が出来たら良い」という趣旨の発言をしていた事も、教徒達の警戒心をより一層強める事になった。

そして 2020 年 1 月 10 日、エビケー時代から話題になっていた「ゆゆうた」氏が、吹奏楽団とコラボする形で「一般男性脱糞シリーズ」を大勢で演奏する動画を投稿した。
水面下でヘイトを溜め続けていた彼だが、この嘗てない大々的なパフォーマンスが、長々と溜め込まれた多くの教徒達の怒りを爆発させてしまったのである。
3 年前とは力関係が完全に逆転している事は、騒動開幕当初の書き込みからして教徒達も分かってはいたようだが、その間もゆゆうた氏は着実に恒心営業で力を増していった。
当時の彼は配信者として全盛期を迎えており、裏を返せばこれだけ多大な影響力を持つ人物が、唐澤弁護士側の戦略に加担する事態に発展しては、いよいよ教徒側で情勢を覆すのは不可能という見方があった。

界隈を包み込む危機的状況を脱する為、一斉に行動する切欠を心の底で求めていたのではないか…それ程の爆発的な一体感が醸し出されていった。
結果として「あくまで外部の人間なので干渉は控えるべき」という意見は消え去り、恒心営業からの撤退と脱糞ソングの動画の削除を要求し、全面的な武力抗争へと突入したのである。

これまで恒心教と明確に敵対した人物は、基本的に個人情報を抑えれば大抵は白旗を挙げているのだが、ゆゆうた氏の場合は事情が少し異なる。
彼は自身への攻撃すらネタにする特異性があり、これまでのセオリー通りでは餌を与えるだけであり、そもそもこの時点では現住所も判明してはいなかった。
次第に「将を射んと欲すれば先ず馬を射よ」という諺があるように、彼自身ではなく関係者やファンに目を付けて、そちらを利用して間接攻撃する形が主流となっていった。
例えばDMCAを用いた攻撃である。DMCAとは、アメリカで制定されたデジタルミレニアム著作権法という法律で、海賊版を始めとする著作権違反コンテンツを取り締まるために制定された。

恒心教はこれに目をつけ、あたかも著作権法に違反したコンテンツを投稿していると通報する事で削除させる方法を使っていた。これを DMCA テイクダウンと称する。この攻撃はコンテンツプロバイダー側が迅速に対応する事が求められるため、AI などが判断して自動削除するといった仕様になっている事が多く、その仕様の穴を突いた攻撃となっている。
この DMCA テイクダウンを取り巻きを脅す事で指示し、ゆゆうた氏の Twitter アカウントを凍結させるなどをしていた。この時従わなければ個人情報の公開をするなどと脅し、無理やり従わせていた。
この時の手法は後に発生するもう 1 つの外部紛争へと流用される事になる。

自身を応援する純粋なファンが巻き添えで燃やされる中でも、ゆゆうた氏はそれに纏わる声明は一切出さずに、何事も無かったかのように暫く活動を続けた。
その間にゆゆうた氏が唐澤弁護士の知人とされる人物を介して、コラボを申し込もうとするLINE のスクリーンショットを、Twitter 上に投稿するという出来事もあった。
しかしこの件に関しては続報が途絶え、彼と唐澤弁護士が直接やり取りをしたのかについても、未だに謎に包まれたままとなっている。

終戦に伴う大きな傷跡

5 月頃まで黙秘を貫いていたゆゆうた氏だが、遂に自身の現住所が特定されると事態は一転し、翌日には一般男性脱糞シリーズの過去動画を削除する意思を表明した。
しかし削除するとした動画群の一部が非公開状態止まりのまま、もしくは非公開にすらされず放置されるという事態が発生。
これに対しゆゆうた氏はコレコレ氏の配信を介して、PC 画面を撮影する等の行為を通して、自身の潔白を証明する動きを見せた。
とはいえ「アップロード動画一覧の全てが映っている訳では無い」等、幾つかの問題が見られた事で、証明としては十分と言える物では無かった。
先述のようなやや稚拙な対応を続けた事で、次第に教徒側の不信感が再び高まる事態へ

と転じ、そんな状況下でゆゆうた氏は新たな活動を開始していた。
削除対象動画リストへのリンクの掲載や、期限日時を明確に設ける等、教徒側も少しずつ圧を高める姿勢を見せたが、何も進展しないまま交渉決裂となった。
余談だが騒動に参加した教徒全員が、武力路線に舵を切っていた訳では無く、Twitter の DM を介した1:1の対談で要求を呑んで頂くよう模索する者も居た。
その一人が同年10月に強要未遂で立件されてしまい、後に逮捕へと至った恒心教徒 F である。

また継続戦争に発展した上で、こちらの要求を通しやすくする為に、彼の自宅だけでなく実家も特定出来るよう試みる動きも活性化した。
仮に本人の自宅が割れたとしても、引っ越しという手段で容易にリスク軽減出来る為、移動が困難とされる実家こそが本丸であるという理屈である。
紆余曲折あって疑惑住所が浮上、しかし特定を認知した自宅の主が対応し、何かある度に貼り紙を張り出した事で却って怪しまれてしまった。
「99%と 100%は似て非なる物」という言葉通り、教徒間でも証拠不足を指摘する懐疑論も根強かったが、騒動当時の空気感も相まって次第に肯定派に主導権が移っていった。

11 月頃まで一進一退の攻防が繰り広げられる中、彼の実家とされた疑惑住所がまさかの「誤爆」であった事が判明。
住人が自分達やゆゆうた氏への攻撃を辞めるように訴える映像が流され、長年確かな実績を積んで来た特定技術に傷が付いた事も相まって、教徒間のモチベーションを削ぐには十分な展開であった。
この急展開を転機と見た恒心教徒のダクト飯氏が、改めて対談によって騒動を収束させる為、終戦工作を本格的に開始した。
遂に前述のコレコレ氏とのパイプを獲得する事にも成功したようで、ゆゆうた氏や他の恒心教徒数名を含んだ終戦交渉が、11 月 22 日に行われる流れとなった。
一応は恒心教側の要求の要求を全て通す事に成功し、唐澤弁護士とは今後一切の関係を持たないという条件を付加する事も出来た。
しかしそれに至るまでの労力や損害は決して無視出来ず、芸術路線を拝借した外部の人物を介してこのような大騒動に発展した事が、同路線に影を落とした事は決して否定出来ない。
そして本騒動には一つだけ大きな謎が未だに残されている。他でも無い唐澤弁護士が本騒動に対して、どのような意向を有していたかである。
ゆゆうた氏の存在や動向を把握した上で、「気にしていない」とまるで容認するような発言をする一方で、自身の配信では彼の芸を連想させる単語を事前に NG 設定していたのである。
また関係者を介したゆゆうた氏との接触についても、実際に対談したかすら何もかも不明瞭なまま、何時の間にゆゆうた氏も触れなくなっていた。
残念ながら本騒動による痕跡は大きく、既に下火であった芸術路線に更なるケチが付いた上に、外部から見た入信への心理的ハードルの向上という問題を生み出した。
騒動終了後も数年の間、騒動の是非による議論が繰り返されたりと、後遺症のように暗い影

が付いて回ったのである。

ただし唐澤弁護士のプロパガンダ戦術の方も、次第に破綻が目立つようになり、相対的に芸術路線への抵抗も一時期に比べれば和らぎつつあるのも事実である。
どちらにせよ全盛期の栄光を取り戻すには課題も多く、これから恒心教が何処へ向かうかはまだ誰にも分からない。

新たな敵「飯塚軍」

ゆゆうた騒動の最中、とある女性がゆゆうたを擁護しているとして特定された。この当時はそういった人物を大量に特定していたため、この段階では特に珍しい事ではなかった。
しかし、その人物が Twitter で有名な荒らしであった「飯塚軍」であったため、恒心教に対して宣戦布告した。とは言え、所詮多数でスパム投稿を繰り返すだけの集団であり、質としては恒心教に劣っていた。
だが相手の数は恒心教より遥かに多く、数人特定した程度では牙を収めるような集団ではなかったため、ゆゆうた騒動から続く問題は長期化する事になった。
彼らは基本的に技術力が無かったのだが、その中でもごく一部の人物は技術力を有していた。そしてそのうちの一人が恒心教に大打撃を与えた。

なんと飯塚軍のメンバーの一人が当時のメインカラケーだったマヨルカ島掲示板（以下マヨケーと表記）を乗っ取り、書き込み内容を全て消去したのであった。
この経緯もあり、ゆゆうた騒動の片手間で行っていた飯塚軍への攻撃は本格化、完全に敵対する事となった。

ただ技術力自体は恒心教のほうが上回っており、次々と特定されていった飯塚軍は最終的に降伏する形で矛を収める事になった。リーダー格であった人物も Twitter のアカウントを凍結されたりしたため、これが事実上の停戦となった。

「同名」の人物が騒動を起こす

2021 年、Wikipedia に唐澤貴洋の記事が突如作成される。恒心教サイドとしては唐澤貴洋 Wiki への自由な記述により真実を広め、Wikipedia サイドとしては余計な火種を持ち込まないでほしいという理由から Wikipedia に唐澤貴洋の記事を作成しないのは暗黙の了解となっていた。
そんな中突如として Wikipedia に唐澤貴洋の記事が作成された。作成したのは唐澤貴洋と同じ「貴洋」の名を持つ大学生（以下 I と表記）だった。内容は唐澤貴洋が主張している「自分は被害者であり、何も悪くない」という内容であったため、恒心教徒からも目を付けられる事となる。この記事はお互い都合が悪い記事であったため、すぐさま削除議論が行われた。この時恒心教徒も何人かはこの削除議論に参加している。
だが、その削除議論で I は言い訳を繰り返し、Wikipedia 原住民からも呆れられる発言を繰り返していた。結局これらの発言により原住民からも見放され、無事記事は削除された。

しかし事態はこれだけでは終わらなかった。I を掘り下げていくと、まず Wikipedia のユー

ザーページに本名と Yahoo! Japan のアカウントが記載されており、そこから通っている大学が特定された。そして女性画家の時と同じ手口で Yahoo! Japan のアカウントが乗っ取られてしまう。こうしてＩの個人情報は丸裸にされてしまった。

だが、これで終わりではなかった。Ｉ はマヨケーの管理人に対し削除依頼をメールで送信。当然これは却下された。内容は管理人によって開示されたのだが、文面から警察に相談した可能性が高かった。

これらの事より Ｉ と恒心教は完全に敵対、徹底的な攻撃が開始された。手始めに彼の名前を使った犯行予告を無差別に送付した。今までの犯行予告は唐澤貴洋の名前を使って行われていたため、一部ではこれが実行に移らない予告と認識されていた。だがここに来て別人の名義で送られてきたため、三菱重工爆破事件[5]のように実際に爆破されてしまうのではないかと各所が警戒を強める事となった。

また、これと並行して Ｉ の情報の掘り下げが行われた。その結果、住所・家族構成のみならず、成人向けコンテンツの購入履歴まで開示されてしまった。この衝撃は大きく、彼をネタにする際に頻繁に持ち出されるネタとなった。

そうしてとことん掘り下げられたＩは Yahoo! Japan のアカウントを消去し、負けを認める事となった。

「荒らし」が生きがいとなった集団との敵対

先述の飯塚軍との騒動が終結後、突如荒らし連合軍と名乗る集団がマヨケーに DDoS 攻撃を仕掛ける。この攻撃はものの数時間で対処され、よくある愉快犯と思われていたのだが、荒らし連合軍の幹部を称する人物がサブカラケーの1つを乗っ取ったとの声明を発表した。

この件で恒心教と荒らし連合軍は敵対する事となった。荒らし連合軍は文字通り「荒らす」事を生きがいとしている人が集まった集団で、様々な場所で問題を起こしていた。

だが、メイン層の多くが小中学生に集中している事もあり、個人情報へのガードが甘い者も多く居た。そのため、主要人物の個人情報が次々と特定されていった。

彼らは高度な技術力を有しているとしていたが、実際は既存のツールを使う程度の技術しか無かった。だが物量攻めは得意であり、恒心教に対しては数で攻撃するスタンスを取っていた。しかし技術力では上回る恒心教の前には無力であり、自慢の荒らしも掲示板スクリプトの改良などによって対処された。結局は内紛による分裂やカラケーの乗っ取り以外めぼしい戦果を上げられずにいた事から荒らし連合軍は事実上の敗北を喫する事となった。

唐澤貴洋の遵法精神の崩壊

2021年頃から唐澤貴洋の発言には弁護士である事を疑う発言が増えていった。

代表的な例で言えば、2021 年東京都議会選挙で自身がどこに投票したかを記した投票用紙を Twitter で公開した。この行為は公職選挙法 129 条に違反しており、事実上の違法行為となっている。

そのため、弁護士なのに違法行為を堂々と主張するのはどういった事かと恒心教内外からも指摘された。なお、本人はそのような事を Twitter で指摘されると恒心教徒でないにも関

[5] 1974 年に東アジア反日武装戦線が電話で爆破予告をした後、本当に爆弾が爆発した事件

わらず相手をブロックし、一切の釈明をせずに正当化していた。
また、その後は反社会的勢力に自ら接近し、2022 年の参議院選挙においてまたしても投票用紙を公開した。一連の行為は唐澤貴洋にのみ治外法権が与えられると皮肉を込めて「当職選挙法」などと揶揄された。
唐澤貴洋の過激化はこれに留まらず、とある証券会社の投資詐欺問題に強い興味を示し、弁護士らしく裁判で戦うのではなく、証拠保全と称して会社敷地に侵入し、不法侵入として被害届を提出された。
また、自力で調査し問題を解決しようとする気概も一切感じられず、他人任せで成果だけタダ乗りしようという状態となっていた。
これらの発言は非恒心教徒からも問題視され、Twitter で多数の指摘があったのだが、これら全てをブロックして封殺していた。この行為は現在も続いており、本人はこの行為を「快感がある」と発言している。

犯行予告に革命起こる

恒心教が犯行予告をする時に使われる方法は基本的に乗っ取ったメールサーバー・問い合わせフォームの自動返信を使った物が基本だったのだが、二人の恒心教徒がその送付方法に革命を起こした。
なんと、ネット上から FAX を送付出来るサイトを発掘し、それを用いて犯行予告を無差別に送付した。この手法は現在でも FAX が常用されている日本だからこそ出来た手段であり、外国でも FAX を未だに使用している事への批判も含めて報道された。
この匿名化された状態での FAX 送付は非常に効果的である事が明らかとなり、唐澤貴洋に対して大きなダメージを与えた事が確認された。だが、長くは続かなかった。

秀才が逮捕される

FAX による犯行予告が猛威を振るっていた中、二人の恒心教徒が逮捕された。彼らは盗難クレジットカードを使い FAX を送付していたとして、私電磁的記録不正作出等の容疑で逮捕される事となった。二人のうち一人は工業系大学院に通っており、今後を期待される人物であった。思わぬ秀才の逮捕により恒心教は彼の逮捕を惜しむ声で溢れた。
逮捕のきっかけとなったのは現在は恒心教アンチとなっている元恒心教徒の家への不法侵入だったのだが、警察が余罪を調べていくうちにこれらの罪も明らかとなった。どういった経緯で私電磁的記録不正作出の容疑に至ったのかは不明だが、匿名化の甘さによる物ではないかと恒心教徒には指摘されている。
恒心教徒の逮捕という事態に唐澤貴洋は歓喜を隠せず、逮捕された両者を誹謗中傷するような内容を投稿していた。また、この際裁判で得た情報を Twitter 上で公開するという弁護士としての常識を疑うような行為も行っていた。
前述した違法行為と併せてこれらの理由で懲戒請求をするという動きも起こった。
結果、彼ら二人は実刑判決が下され、現在は刑務所で服役している。恒心教徒は優秀な人材を失ったとして彼らを支援する動きも一部では起こった。

またこの時期から唐澤弁護士を除く、話題性の強い関連人物が殆ど動きを見せなくなった点も特筆に値する。

先述のプロパガンダ戦術に失敗し、恒心教徒に対する本音も隠さなくなった影響もあって、界隈内でも必然的に話題は彼一色となった。

皮肉な事に「唐澤弁護士に何かを仕掛けて、有力な恒心を引き出す」といった、恒心黎明期のフォーマットへと原点回帰を果たしたのである。

その流れは 2025 年 7 月現在も変わらず、良くも悪くも教祖と教徒による歪なコミュニケーションは今日でも行われている。

この先、H と唐澤貴洋、恒心教がどうなるのかはまだ誰にも分からない。

文化としての恒心教

犯罪組織として見た恒心教

近年恒心教はインターネット上を拠点とする犯罪組織として名が出る事が多いが、一般的な犯罪組織とは大きく異なる部分がある。本章ではその相違点を解説していく。

まず一番明確な特徴として挙げられる点として、リーダーが存在しないという点がある。一般的な犯罪組織は元締めがいて階級構造になっているのだが、恒心教の場合は明確にリーダーといえる人物が存在しない。恒心教の犯罪は基本的に愉快犯のみで成り立っており、同一の目標に対して個人が行動を起こすという形で成り立っている。この形態を攻殻機動隊の用語を借りてスタンドアローン・コンプレックスと表現する事がある。

この方式の一番の強みとして、法的措置による壊滅が起こりにくいという事が挙げられる。恒心教の Web サービス(掲示板・Wiki)は有志が自主的に行っている物であり、恒心教の中枢部の人間が指示して行っている物ではない。そのため恒心教の掲示板は基本的に別々の管理人がそれぞれの掲示板を管理しており、中核となる掲示板(恒心教の用語としてメインケーと呼ぶ)が何らかの理由で閉鎖したとしても有力な補助的な掲示板(同様にこちらはサブケーと呼ぶ)に住民が避難し、次期メインケーを選定するという形で掲示板の「代替わり」を行ってきた。

ただし恒心教の歴史において、メインケーと Wiki の両方を運営していた人物が居た事がある。サイモントン療法協会被害者の会掲示板(サヒケー)の管理人は、この当時 3 代目唐澤貴洋 Wiki も運用しており、閉鎖される際に Wiki も閉鎖せざるを得なかったため、混乱が起こっていた。

現在運用されているメインケーに至るまでに多数のメインケーが存在しており、閉鎖理由も様々であった。特にしたらば掲示板で運用されていた時期は短期間で強制閉鎖される事が頻発しており、この時の名残でサブケーを分散させる事でメインケーが閉鎖された時の損害を最小限に抑える形態を取っている。

次に大きな特徴として、上下関係が存在しない点が挙げられる。これは前述した通りリーダーがいない点と繋がっており、基本的に恒心教は横の繋がりのみで成立している。メインケーや Wiki の管理者など立場的には上に立つ人もいるのだが、彼らには恒心教全体に関わる権限という物が無く、仮にそのような立ち振舞をした場合他の恒心教徒から攻撃されてしまう。この点は恒心教自体が司法を敵に回す事が多いため反権力の傾向があるからだろう。

ただしこの方式には欠点もある。意思決定権は各個人がほぼ同じであるため、急速な意思決定を要求する場面に弱い。例えばこのままでは掲示板が法務執行機関によって閉鎖されてしまうといった時に、運用形態を変える事で対応出来るとする。一般的な犯罪組織だと上層部がこれを決定して運用形態を変えるのだが、恒心教の場合は上層部という概念が存在せず、パブリックコメントという形式を取ってから方針を決定する事が多い。そのため、意思決定が全体的に遅い傾向にある。

最後に挙げられる特徴として、芋づる式に逮捕される事が原則無い点が挙げられる。恒心教は一言で言うならば「集合意識」で、実態という物が存在しない。恒心教は唐澤貴洋と H の両者にダメージを与える事という目標のみを共有した集団で、一時的に連携する事はあれど基本的に個人が個人の思想に基づいて行動するため、一人を逮捕したところで他の恒心教

徒の情報が出てくる事は原則無い。恒心教は匿名で行動する事が基本のため、他の行動役の事を通称でしか知らない事も往々にしてある。そのため、同じ恒心教徒であってもお互いの事を知らない事は普通なのである。

こうした特徴が重なる事で、恒心教は大々的な犯罪を起こしても一斉摘発されるといった事が起こらない。また、闇バイトなどではルフィと名乗る元締めがいるなどと報道されるが、恒心教はそういった類の物が存在しないため、冗談も含め唐澤貴洋が元締めと言われる事が多い。

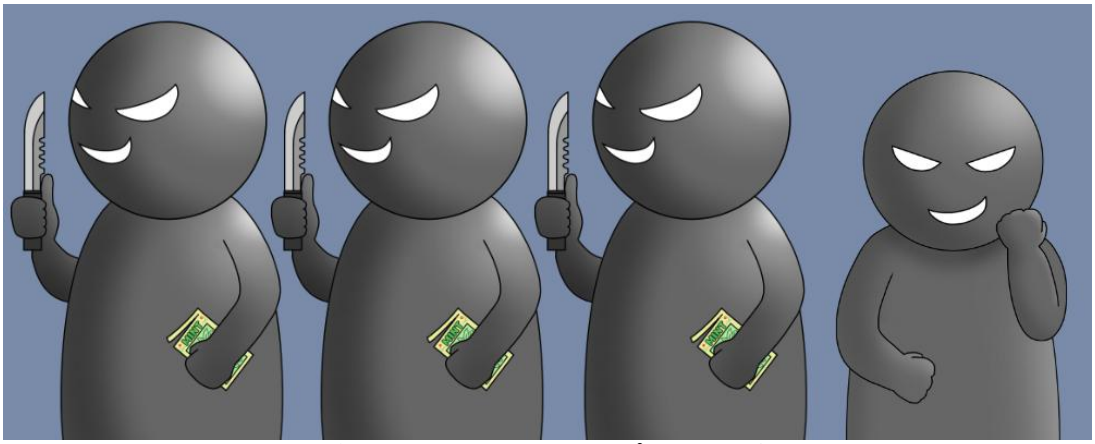
恒心教内においての役割を持つ人の呼称

恒心教における役割は様々であり教徒非教徒を問わず様々な呼称が存在している、本項ではその一例ご紹介しよう。

恒心教徒は基本的に「芋」と呼ばれる事が多い。これは唐澤貴洋の発言である「悪いものたち」がルーツとなっている。

これがどうして芋に変化したのかというと、芸人のルー大柴の言い回し(ルー語)に変換するというサイトがあり、そこに唐澤貴洋が書いた文章を入力したところ、「悪いものたち」が「悪ポテトのたち」に変換されてしまった。これが恒心教徒に人気を得た事で、略称として「芋」が定着していった。

本文では「～芋」と表記した際は「～をする恒心教徒」という意味合いで用いる。



◆悪いものたちのそれっぽいイメージ

恒心教の中で最も重要とされている恒心教徒が「悪芋」である。文字通り「悪いものたち」であり、恒心教における実働部隊でもある。彼らは主だって犯罪行為を行い、唐澤貴洋と Hの悪事を広めている。基本的に犯罪行為を行うため匿名で行動し、なおかつ匿名化に優れており警察の捜査を困難にしている。

また基本的に逮捕される恒心教徒は悪芋であり、逮捕された悪芋は殉教者として最大限の評価がされる事がある。ただし、逮捕された悪芋に対する支援は身元を警察に公開する必要があり、あまり行われていないのが実情である。

それに対し、排除されるべきとされる恒心教徒の事を「臭芋」と呼ぶ。アングラ文化における「臭い」と呼ばれる層で、これはそのグループの名を関して大々的に問題行為を起こしたりす

る人物の恒心教内での呼称である。
基本的にこの層は恒心教に対して害を成すため、唐澤貴洋と H の攻撃への傍ら排除対象として攻撃される事が多い。実際彼らの中で個人情報が特定され、攻撃に使われた者も少なくない。
最近は少ないのだが、恒心教に新規参入した恒心教徒の事を「新芋」と呼ぶ。芋から転じて新じゃがなどと呼ばれる事もある。彼らは無知故に色々と他の教徒から教わるのだが、ここで誤った事を教えて臭芋にならないように教育する事が課題として挙げられている。
恒心教は基本的に名前を名乗る事が禁止されている文化なのだが、立場上名乗る事が許されている層が存在する。それは唐澤貴洋 Wiki の編集者である「wiki 芋」と、二次創作を中心に活動する「芸術芋」である。両者はそれぞれアカウントを有する必要があるため様々な名前を名乗っている事が多い。名前として多い物は唐澤貴洋が名乗っていた「ネットに強い弁護士」を真似た「○○に強い弁護士」である。実際に Twitter を中心にこの名前が多く、恒心教徒の代表的な名前といえるだろう。
この他にアンチ恒心教の人物を「包皮民」と呼ぶ事がある。名前は H の顔が男性器に似ていると言われた事に由来しており、H を守る物＝包皮と呼ばれた事から包皮民と呼ばれている。
彼らも明確に恒心教に害を成す人物であるため、唐澤貴洋・H への攻撃の傍らに攻撃される事が多い。

ミイラ取りがミイラになる。

恒心教に限らず、炎上というものは長期化するにつれて多種多様な者たちが炎上に関わるようになっていくがその中でほぼ共通して見られる傾向がある。

炎上にその対象未満の行いと経歴を持った者が入り込み、その人物が炎上する事である。
この現象は炎上がある程度長く続き、新たな燃料が不足してきた際に起こりやすい。そして彼らが炎上する事によって本丸である炎上はコンテンツとして長期化するのである。
恒心教で言えば「外伝主人公」、「臭芋」と呼ばれる者たちが例として挙げられる。
具体的な例を挙げてみよう。「事務所」、「眉毛」、「ヴォルデモート」などと呼ばれる F という外伝主人公の一人がいる。
彼はコミックマーケットにて恒心関係の本やグッズを出す「コミケ路線」なるものを考案し実行した一方で、他の芸術教徒を攻撃し引退に追い込んだり、他の恒心教徒へのたかりや個人情報を集めて脅迫、窃盗や虚言といった行為だけでなくそれを他教徒に罪状を押し付けるといった責任逃れを行った。
その為彼は集中的な批判を浴び、批判者たちに対して開示や裁判を行ったものの、それによる実害がなかったという、唐澤貴洋弁護士と同じような行為を行った為に恒心教という炎上コンテンツの薪の一つになってしまったのである。
自らは創作能力をほとんど所有していなかった上に、曲がりなりにも大卒である H や唐澤貴洋と比較して高卒であった事もあり、恒心教の批判者らから「恒心教徒は彼ら未満」という批判の材料を与えてしまった。

もう一人、「ドナルド」というあだ名で呼ばれる者がいる。

彼は言語理解の高さといった優れた頭脳を有していながら、カラケーに無用なコテハンを付けたり、無関係なコンテンツの宣伝を行う、不必要に外部組織を炎上させようとする行為しかしていなかった為に臭芋として不要である・もしくは有害な人材扱いを受ける事になってしまった。

また彼は爆破予告を行って書類送検されただけでなく、全く勉強をせずに受かったと同時に爆破予告で捕まった事を自慢して大学合格を取り消された事がある。

それだけでなく再度別の大学に合格したものの、違法薬物を摂取した上で自殺を試みるが失敗し逮捕。

裁判で懲役 1 年執行猶予 3 年の判決が下されたと同時に、再び合格した大学を退学する結果になってしまったである。

自分を適切に抑えられない。このような者たちが恒心教には実際にいる（いた）のである。

「匿名」という文化

恒心教は現代のネット文化としては特異な部分が存在する。それは匿名である事を重んじ、極力自分を出さないという文化だ。これは H が自分語りをしたが故に炎上したという観点から、反自分語りを教義とする文化を形成した。

この教義は現在でも受け継がれており、SNS が台頭して注目される事に価値観を感じる今の若者とは大きく違う文化が形成されている。

恒心教は前述した通り権力の差は無いが、格差は少なからず存在する。ただし恒心教の格差構造はかなり特殊で、逆ピラミッドと称される。

恒心教においてはもっとも上位に存在するのが匿名で活動している教徒である。厳密にはこの中でも行った行動に応じて上下はあるが、概ね頂点に位置するのは変わらない。

次に位置するのがハンドルネームを持つが、恒心教にとって有能と評価される[6]教徒で、その下に位置するのがハンドルネームを持ち、なおかつ無能と評価された教徒で、底辺に位置するのが唐澤貴洋と H の両者である。

このような格差構造であるため、ハンドルネームを持つ恒心教徒の活動期間は短い事が多い。実際にハンドルネームを持つ恒心教徒で、5 年以上活動している教徒は数えるほどしかいない。

また、有能と評価される恒心教徒であっても一つの失敗で評価が逆転する事は多々ある。例えば当時実質一人しかいない Wiki 管理者[7]が愚痴を吐いたところ、今までは Wiki に必須だった教徒という評価が一転して排除したほうが良いのではないかという議論が出た事がある。

そのため、恒心教徒は内輪揉めなどで流動性が高いものとなっており、気づいたらメイン層が全て入れ替わっていたという事も多い。

---

[6] 恒心教にとっての才能判定に遵法精神は関係なく、唐澤や H に実害を加えたり彼らの悪評を広めたかが評価基準となる事が多い

[7] 唐澤貴洋 Wiki は MediaWiki というソフトを使っており、これにおける管理者は削除権限などを持つ役職で管理者＝Wiki の管理人でない事に留意

格差の関係から内部対立も多く、内輪揉めや悪目立ちした結果他の恒心教徒から攻撃される事も多い。その結果、精神を病んで恒心教から離れるといった事例も時々見受けられる。

疾患・障害と恒心教との関係性

恒心教はそのコンテンツの特性上、様々な背景を抱えた者たちが集まってくる。その中で目立つのが発達障害や精神障害を抱えた者たちだ。

これは他の炎上コンテンツでもある事だが、恒心教の場合は専用の掲示板を作る程の需要があった。「恒心綜合大学医学部附属病院掲示板」(病院ケー)、それがその専用の掲示板の名称である。このカラケーは 2015 年 7 月 25 日に設立された。

本来恒心教では H 少年の例から自分語りは禁忌とされてきたものの、この掲示板では悩みを取り扱うという特性上それが許されているのである。

その反面転載に関するルールは他の掲示板より厳しく、雑談スレ(雑談をするスレッド)及び管理スレッド以外の内容の転載は禁止されている。

この掲示板が問題と言われる事もあるが、それでもコミュニティとしてやっていくには愚痴を吐く場所は必要との声もあり現在も存続している。

実際に身体や精神に不調をきたし、彼らが消耗しないようにケアの場として機能している。

なん J 鉄壁 4 点セットから始まる匿名化技術の普及

恒心教を語る上で Tor(The Onion Routing)といった匿名化技術は外せないだろう。

この技術は利用者の個人情報を守る事が目的であり、なん J 民や恒心教徒はそれを利用して安全に唐澤貴洋弁護士への殺害予告や犯罪予告を行う方法の研究を進めていた。

その代表となった方法の一つが「なん J 鉄壁 4 点セット」である。

これは Linux という無料の OS 上で筑波大学と SoftEther が運営する「SoftetherVPN」という無料の VPN(Virtual Private Network)を通して Tor を繋げる事により、通信速度と引き換えに匿名性を得て発信元を特定しにくくする方法である。

これはよく引用されていたが、2014 年の時点で既にこの方法の危険性が指摘されており、代替となる Tails や Whonix といった Linux のディストリビューション(中核となるカーネルとそれをとりまくソフトウェアのセット)を利用しての方法に取って代わられた。

0Chiaki と呼ばれるサイバー関係に強い恒心教徒が自らのブログにてそのノウハウを書き記し、恒心教内を中心に匿名化技術の普及に役立っていた。

そして年を経る毎に一般化した過激路線に必須の技術というのもあって、恒心教において匿名化技術は切っても切り離せないものとなっていったのだった。

「唐澤・H イジリ」が産んだ文化

恒心教自体は元々炎上騒動なのだが、唐澤貴洋の悪行を広める方法として二次創作を活用していた時期も存在する。元々派生元のなん J 自体に実在人物をネタにするという風潮があり、他人を馬鹿にする時にネタ性を盛り込んでからかうという事が日常的に行われてきた。そのため、唐澤貴洋・H の両者もそういった扱いを受けており、恒心教内では彼らに対するありもしない設定が日常的に使われている。

特に唐澤貴洋は炎上した規模と時期がＨよりも遥か大きくに長いため、それに付随する設定が多数存在する。有名な物で言えば、中学時代に教室で脱糞したという物や、多数の核兵器を所持しているといった物だ。これらは唐澤貴洋の反応や、恒心教徒が起こしたアクションから付けられた設定で、本人がそういった事をしたなどの事実は一切存在しない。

この「ネタ化」が存在した事により、恒心教は単なる「炎上騒動」ではなく「文化」として成立している部分がある。これは元日本ハムの多田野投手が火種となった真夏の夜の淫夢騒動と似ていると言えるだろう。

また、前述した通り恒心教はサブカラケーという概念が存在する。このサブカラケーは掲示板ごとに文化が違う事が多く、その中でも二次創作に特化した掲示板がいくつか存在する。

その中でも特筆すべきは「穏健派」「萌え」に特化した六実っ子を愛でる板（以後ムツケーと表記）だろう。このカラケーは非常に息が長く、アサケーの時代（2015 年末）から現在に至るまで存続しているカラケーとなっている。

◆恒心教を象徴するマスコットキャラクター「けんまくん」

恒心教は基本的に炎上騒動故に住民が攻撃的な事が多いのだが、ムツケーは例外であり、他者に対する攻撃性があまり見られない事が特徴となっている。萌え創作に特化した掲示板故に閉鎖されるような書き込みがされる事はほとんど無く、カラケーとしては異例の平和な書き込みが続いている。

そもそもムツケー自体が成立されたきっかけはＨが住んでいる地区の祭りの告知ポスター

に描かれていた六実っ子[8]というキャラが恒心教内における女性キャラの代表格として扱われ、それを取り扱うカラケーとして成立されたという物になる。

また、もう一人の代表格として、けんまくんというキャラがいる。本誌の表紙のキャラが彼[9]である。彼は元々H の家に置物が置かれていたのだが、恒心教徒がこれを擬人化し、一人のキャラとして確立させた。

現在は六実っ子やけんまくん以外にも座間子[10]や艦これの電[11]などのキャラクターが増え、二次創作が最も盛んなカラケーとなっている。

自分語りに対する禁忌

恒心教が成立したきっかけは H の自分語りである事は冒頭で説明した通りだ。そのため、恒心教には自分語りを禁忌とする文化が根付いている。そして同時にその禁忌は一部の教徒の足枷にもなっている。

「一般的な」恒心教徒は無視出来るのだが、一部には「心のチンフェ」と称される自己顕示欲を持った恒心教徒も存在する。彼らは基本的に「臭芋」と称され、排除される事が常である。

元々恒心教自体犯罪色の強い文化でもあり、迂闊に話せば逮捕に繋がるといった観点もある。

実際、自分語りがきっかけで逮捕されてしまったという前例も存在している。逮捕された恒心教徒は基本的に「殉教者」として評価される事が多いのだが、こうしたきっかけで逮捕された場合は評価される事が少ない。むしろ、当然の報いだとして更に攻撃される事も多い。

恒心教の特性上仕方のない事ではあるが、勢力の拡大を求めるならばこうした事にも寛容である場所を作るべきといった考えも過去にはあった。

しかし提唱者が問題を起こし、無能と評価された事から長くは続かなかった。

また、事務所騒動を始めとする複数の要因が重なり、嘗ては増加の一方を辿っていた恒心教も現在は大幅に規模が縮小している。

ただし、一時期は禁忌とされていた自分語りも昔よりかは許容されている傾向にある。というのも、唐澤貴洋が Twitter での投稿を再開した今、Twitter 監視の目は他教徒より唐澤貴洋のほうに向けられている事が多く、他の教徒の書き込みはあまり見られていない。また、教徒の数の減少により、そういった書き込みを見る教徒自体も減っている。

そのため、カラケー外における自分語りは以前ほど咎められる事が減ってきている。そういった事柄は、その目的で運用されている掲示板でも特定の臭芋を叩くといった書き込みは減少傾向にある事に表れている。

現在では恒心教徒であってもちゃんと場を弁えて、なおかつ内容も問題無いようであればスルーされる事がある。問題となるのは H のように場所を弁えずに問題発言ばかりをするよ

---

[8] 厳密にはポスターの女の子＝六実っ子ではないのかもしれないが、恒心教内では同一人物として扱われている

[9] 女性的な見た目をしているが、初期案の時点で男性である。

[10] 炎上騒動が拡大していった際に座間市のとある人物が巻き込まれたのだが、六実っ子同様に深堀りしていく最中に見つかった宣伝ポスターに描かれていたキャラクターを指す

[11] 尊師 MMD が発展していく中で恒心教関連キャラとして取り込まれた

うな人物なのである。

結論 恒心教は社会に何をもたらしたか

さて、ここまで恒心教について書いてきたが、これら一連の出来事が外部の社会にどのような変化を与えてきたのかを総括すると「唐澤貴洋の数々の失態による、弁護士という職業の社会的地位の低下」、「彼ら弁護士や警察に対抗する為の匿名化技術の普及による、言論の自由を中心とした権利の拡大」が挙げられるだろう。

前者の唐澤貴洋のなんＪ民や恒心教徒らに対してIP開示程度の中途半端な法的措置や、彼自身が被害者となった事件を中心に X（旧名：Twitter、教徒間での名称は「ﾂｨｯﾀﾊｧ」）で事件の加害者の個人情報をばら撒いて私刑を促すといった行動と、それを咎めない東京第一弁護士会の態度により、なんＪ民や恒心教徒だけでなく、そうでない一般層にも唐澤を中心に不信感が高まりつつあり、またその態度が「ネットのおもちゃ」としていたずらや犯罪のターゲットとしてネタにされる結果になっている。

後者の自由の拡大については規制の緩い海外のホスティング業者（防弾ホスティング）やTor・VPN といった匿名化技術が一部の教徒からもたらされた事で「弁護士のような実力と社会的地位があるとされる存在でも自由に批判して良いのだ」という風潮を形作り、またＨ少年の過ちを踏まえ、教徒間での内紛を避ける為にも自分語り、いわゆる自己開示を避ける匿名文化が花開く事となった。
もちろんそうした技術は恒心とは関係のない分野に対しても、犯罪という形で利用されるという事はあるのだが。

それらを総括すると恒心教は「万人は相手が誰であろうと自由に批判できる」という文化と技術の両方をもたらしたのではないだろうか。

恒心教でよく使われる用語集

本項目では、恒心教徒が日常的に使う用語を解説していく。なお、紙面の関係上使用頻度の高い物のみをピックアップしている。

あ行

頭唐澤貴洋(あたまからさわたかひろ) - 唐澤貴洋と同様に思考が浅はかなどの意味を持つ暴言。

甘芋(あまいも) - 統合失調症患者の隠語。統合失調症→統失→糖質→甘いもの→甘芋という形で変化した。

芋(いも) - 恒心教徒の略称。悪いものたちのルー語変換である悪ポテトのたちに由来。

ウツケー - 正式名称は栃木県道 10 号宇都宮那須烏山線掲示板(とちぎけんどう 10 ごうせんうつのみやなすからすやませんけいじばん)。特定の恒心教徒などを批判するスレが多数立てられた掲示板で、その需要から現在でもウツケー枠と呼ばれる掲示板が運用されている。

馬 K(うまケー) - 唐澤貴洋が所属していた事務所のロゴに由来。当該ロゴは馬の右に K が描かれている。

謁見(えっけん) - 唐澤貴洋と実際に会う事を指す。

おかしな人(-ひと) - 文字通り行動が異常な人を指す。唐澤貴洋以外の恒心教関連弁護士の依頼人が逮捕された時のニュースに由来。

か行

開示(かいじ) - 新しい情報を公開する事。

核(かく) - 戦況をひっくり返すような重要情報などを指す。唐澤貴洋の核兵器保有ネタから派生した。

臥薪嘗胆(がしんしょうたん) - 恒心教では本来の臥薪嘗胆の意味とは異なり、何もしていない空白の期間を指す。唐澤貴洋の発言に由来。

カラコイン - 唐澤貴洋のシールが貼られた硬貨。自動販売機で使えるという理由から、10 円玉がよく使われる。

唐澤貴洋掲示板(からさわたかひろけいじばん) - 恒心教のフォーラムとなる掲示板。海外でよく見るフォーラム形式ではなく、2 ちゃんねるから派生した形式の物である。カラケーと略され、掲示板ごとに略称も存在する。(◯◯ケーといった形)

カルマ - その者が行っている恒心教徒の評価基準での悪行。カルマが溜まると表現され、無能判定の基準とされる。オウム真理教用語より派生。

魚拓(ぎょたく) - Web アーカイブとも。第三者が改ざん出来ないようにした状態で Web ページを保存するサイトの事を指す。有名な物だと Wayback Machine があるが、権利者からの要請で消える事があるため恒心教徒は Archive.today を常用する。

臭芋(くさいも) - 恒心教徒ではあるが、無能と判定された教徒の事を指す。一般的に恒心教にとって有害であるため、排除のために攻撃される事が多い。

けんま - H の住所に由来する、現地訪問を表す隠語。

コーラン燃やし(-も-) - 唐澤貴洋はアンチイスラムなので、ムスリムに対する侮辱としてコ

ーランを燃やしているという事になっている。本人はそのような行為をしないのだが、ムスリムにも攻撃に加わってもらうために作られた設定である。

恒心(こうしん) - 更新の恒心教内部での言い換え。アップデート等の意味合いでも使われる。唐澤貴洋の事務所名に由来。

国営セコム(こくえい-) - 警察の隠語。唐澤貴洋が警察をまるでセコムのように使っていた事に由来。

心のチンフェ(こころ-) - 自身に内在する自己顕示欲の事を指す。恒心教の教義ではこれを抑える事が第一とされる。

さ行

サイバーカ - 警視庁サイバー犯罪対策課。主に罵倒目的で使われる事が多い。

サブケー - 主要用途とは違う用途で用いられる掲示板。掲示板ごとに独自の文化が発展している事が多い。

師(し) - 恒心教における敬称。オウム真理教用語から派生しているのだが、オウムでは役職を示す称号だったのに対し、恒心教は三人称の敬称として使われる。

事実追求路線(じじつついきゅうろせん) - ありもしない内容をでっち上げて誹謗中傷するのではなく、過去に行った行為を調査して攻撃する路線。唐澤貴洋 Wiki はこの路線に基づいて運用されている。

自分語り(じぶんかた-) - 文字通り自らの情報を公開する事。これらを繋ぎ合わせて特定する事が恒心教の基本戦法である。恒心教徒が自分語りしすぎるとカルマが溜まっているなどと言われる。

正悟師(しょうごし) - 恒心教の活躍の中で、正大師認定する程の成果ではないものの、十分な成果を得た恒心教徒に贈られる称号。元々はオウム真理教で正大師の次に当たる階級。

正大師(しょうたいし) - 恒心教の活動の中でも特に目立った成果を上げた恒心教徒に贈られる称号。元々はオウム真理教において尊師の次に当たる階級。

神託(しんたく) - 唐澤貴洋から Twitter でブロックされる事。

スタンドアローン・コンプレックス - 元々は攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX の用語。明確な指揮系統が無いにも関わらず、個人の意思の集合が結果的に組織化している状態を指す。

セーフ理論(-りろん) - 攻撃する際にこれはこういう理由なのでセーフというこじつけの理論。例としては「実在するドメイン名であり、殺害予告にあたらないのでセーフ」といった物。

聖書(せいしょ) - 唐澤貴洋が書いた書籍全般の事を指す。

尊師(そんし) - 唐澤貴洋の事を指す。オウム真理教用語からの派生で、恒心教の開祖と皮肉を込めて使う事が多い。

た行

ターン制(-せい) - 初期の恒心教が長期間炎上する事になったきっかけ。唐澤貴洋と H の新情報が交互に発掘されたため、話題が尽きる事が無かった。

ダチョウ - 亡くなった唐澤貴洋の弟の事。発覚当時ネットに作れる墓がペット墓しか無かったのだが、その時にダチョウとされた事に由来する。

駄目です(だめ-) - 唐澤貴洋が開示請求を求めたスレに書き込まれた返信。あまりのシン

プルさに拒否する時の返答として多用されている。表記揺れとして「ダメです」も存在する。
ちばけんま － H の住所の隠語。住所の上 5 文字に由来する。下 4 文字から取ってニーナハッサン(2783)とも呼ばれる。
茶髪ソース(ちゃぱつ-) － 信用性が皆無の情報。H がソース[12]の意味を間違えて発言した事に由来。
チンフェ－H の渾名で一番有名な物。H の顔が男性器に見えると揶揄された事に由来。
ﾂｲｯﾀﾊｧ － Twitter(現:X)の事。唐澤貴洋の発音に由来。滑舌の悪さを表現するために半角カナで表記される事が通例となっている。
出会いに感謝(であ-かんしゃ) － 恒心教徒が感謝を示す時によく使う文言。元は唐澤貴洋の発言である「人との出会いに感謝。」に由来する。出感と略される事も多い。
てすや－唐澤貴洋が間違えて開示したとされていたワード。実際には開示していないが、このような経緯もあり恒心教徒はテストの代替単語として使っている。
ですを － 唐澤貴洋のフリック打ちの入力ミスに由来。本来は「です。」と入力すべきところを「。」が「を」に化けたため語録になった。同様のミスに「でふ」(ですの打ち間違い)も存在する。
出龍(でりゅう) － 唐澤貴洋の父親である唐澤洋の事。初期に存在した風俗狂いの設定から派生した渾名。
当職(とうしょく) － 弁護士ではよく使われる一人称。初期の唐澤貴洋が常用していた事より、恒心教においても一人称として用いられる。

な行

何かの wiki(なに-うぃき)－唐澤貴洋 Wiki の事を指す。2 ちゃんねるの法学板の住民の書き込みに由来。
ニキ － なん J の文化に由来する男性の敬称で兄貴の略。女性の場合はネキ(姉貴の略)になる。
熱湯法(ねっとうほう) － Tor による書き込みを開示するために用いられた手法。由来は熱湯と呼ばれる事の多い弁護士が行った手法から。
ノーダメージ － 相手が損害を受けていないならばもっと過激な事を行っても良いという時に用いられる考え。または相手からの攻撃は実害が無いためその程度の攻撃で済むならもっと過激な事をしても良いという時の考え。

は行

パカソン－パカ弁ソングの略。唐澤貴洋関連の恒心教徒製楽曲の総称。
パカ弁(-べん)－パカパカ(開示請求)しかしない弁護士の略。唐澤貴洋以外にも存在する。
パズルのピース － 重要情報に繋がる断片的な情報。恒心教徒の特定戦法はこれらのパズルのピースを埋めていく事で全体像を明らかにする事が基本となっている。
ハセ学(-がく) － H の書き込みから自らの行いを鑑みる考え。現在で言うインターネットリテラシーとほぼ同義。
非ワ(ひ-) － 非恒心教徒の事を指す。元々は一般人と呼ばれていたのだが、一般人という

[12] この場合は情報源の事を指す

名前で活動する恒心教徒が居たため「非ワキガ」[13]の略で現在でも用いられている。

ブーメラン - 他人に対する暴言が自身にもそのまま当てはまる事を指す。

福舜行為(ふくしゅんこうい) - 恒心教内部でまだ公開してはいけない段階にも関わらず、勝手に公開して相手を警戒させる行為。とある人物を特定しようとした際に相手を警戒させてしまい、その対象となった人物の名前から取られた。

ふざけた田舎(-いなか) - H の家の交通の利便性が悪く、まるで田舎のようだと揶揄された事に由来。実際はもっと不便な場所に住んでいる攻撃対象も多い。

フリー素材(-そざい) - 本来はクリエイティブコモンズなどのゆるい著作権でライセンスされている素材の事を指すが、恒心教では唐澤貴洋の似顔絵から派生した素材を指す。

ぶロック - Twitter(現:X)で唐澤貴洋にブロックされる事。唐澤貴洋の誤字に由来。

ポア - 削除・逮捕・凍結・閉鎖などの隠語。オウム真理教用語より派生。なおポワと表記される事はほぼ無い。

放射能汚染(ほうしゃのうおせん) - 唐澤貴洋が関わる事により、相手に何等かの悪影響を及ぼす事。唐澤貴洋の核兵器保有ネタより派生。

防弾サーバー(ぼうだん-) - 一般的には防弾ホスティングと称される。法務執行機関からの要請を受け付けないサーバー管理会社の事を指す。

包皮民(ほうひみん) - 恒心教に敵対する人物や H を擁護する人物を指す。H の顔が男性器に見えると言われた事より派生。

ホーリーネーム - 恒心教徒の中でも戦果を上げた教徒に付けられる通称。唐澤貴洋が付ける事もある。オウム真理教用語より派生。

仄めかし(ほの-) - 知っていて言わないが態度や言動でそれとなく示唆する行為。これらの情報はパズルのピースと称される事もある。

ま行

真夏の夜の淫夢(まなつ-よ-いんむ) - 元日本ハムの多田野選手が出演したゲイポルノから発展した騒動。同じなん J で流行したコンテンツという事もあり、恒心教に与えた影響は大きい。

身が震える。(み-ふる-) - 恐怖を感じているという意味を持つ語録。唐澤貴洋の発言に由来。読点まで含めて語録となっている。

見つけ次第殺せ(み-しだいころ-) - 元々は 5 ちゃんねるにあるコナミの実況パワフルプロ野球のスレッドで使われていた用語。とあるパカソンをきっかけに恒心教にも輸入された。ちなみにイスラム教の聖典であるコーランにも似たような記述がある。

無能(むのう) - 恒心教においては布教活動に貢献出来ず、害をもたらす者か唐澤貴洋・H に有利になるような事をしている者に使う事が多い。

無能ボイス(むのう-) - HOYA サービス株式会社が公開している音声合成ソフトの VoiceText における SHOW の事。現在は無能ボイスと同様の設定が出来ないため利用不可。(個人向け販売が無いソフトのため)

姪(めい) - 死ぬ・壊れる・サービス終了などの隠語。元々は小林麻央親戚なりすまし事件

[13] 彼女の名誉のために書いておくが、ワキガだったのは彼女ではなく別の人物だった

で使われていた文言の「私の姪の小林麻央」に由来。
　メインカラケー – 恒心教の中核となる掲示板。様々な事情で代替わりし、数ヶ月で閉鎖される事が多かったのだが、現在は年単位で運用出来る程安定している。全カラケーの中で一番人口が多い掲示板。
　【モンスト】うおおおおおおおおおおおおおおおおお – 興奮するような事があった時に書き込まれる。モンうおと省略される事も多い。まとめブログ騒動の時にこの文言と共にＨの顔写真をそのまま掲載したサイトがあった事に由来する。

や行

　八神太一（やがみたいち）– Ｈが使っていたハンドルネーム。デジモンシリーズの主人公に由来している。
　有能（ゆうのう）– 恒心教において、布教に貢献した、唐澤貴洋からの恒心を引き出した、恒心教コミュニティの維持に貢献したなど恒心教にとっての利益を生みだした者に使う事が多い。
　用水路（ようすいろ）– 唐澤貴洋が弟を殺したとされる場所。松戸女児殺害事件で「用水路にいるから探せ」との文言で使われた事もある。
　預言者（よげんしゃ）– Ｈの事を指す。尊師（神）を引き出したとして預言者と呼ばれる事がある。
　夜泣き（よな-）– 唐澤貴洋が深夜に怪文書を連投する様。元々は唐澤貴洋の依頼人の発言に使われていたのだが、唐澤貴洋本人も似た状況になっているのと依頼人の音沙汰が無くなったため、現在では唐澤貴洋の書き込みを指す事がほとんど。

ら行

　ラジコン – 恒心教徒の言うがままに動く人物の事。主に現地調査の身代わり要員として使われている。使われる人は出会い系サイトにいる人から子ども、果ては違法薬物の売人などと多種多様になっている。
　レスバトル – なんＪの文化で、お互いに煽り合いをして先に逃げたほうが負けという不毛な戦い。Ｈが得意としていたとされる。
　論文（ろんぶん）– 犯行予告の隠語。元々はＩのメールボックスの下書きに論文の下書きと思われる物が残っており、その文章を真似て犯行予告をしたのがきっかけ。

わ行

　早稲田大学（わせだだいがく）– 唐澤貴洋の出身大学[14]。唐澤貴洋以外にも恒心ファミリーが数名卒業・在学（執筆当時）しており、浅からぬ因縁を感じる。
　悪芋（わるいも）– 恒心教徒の中でも前線に立つ実働部隊の事を指す。悪いものたちの略称で悪芋となっている。
　をには – 唐澤貴洋の誤字の１つ。前後の文面（*大事な子供が犯罪を起こしてしまったという無念さがその涙をには見えました。*）と合わせてどこをどう取っても日本語として成立しない

[14] 唐澤貴洋の最終学歴は早稲田大学法科大学院である

助詞の使い方であり、唐澤貴洋の推敲能力が低い一例とされている。
　ンバホ – 埋め立て荒らし行為を指す隠語。元々はパカ弁発掘の際に見つかった弁護士が埋め立て行為をしており、そこからンバホ族の勇猛なる虎という設定が産まれ、埋め立て＝ンバホとして独立した。
　ンマ – けんまくんという恒心教徒が作ったキャラクターの口調。主にムツケーを中心に使われる。

英数字
　AKB48 握手会傷害事件（えーけーびーふぉーてぃーえいとあくしゅかいしょうがいじけん） – 恒心教徒が唐澤貴洋に罪を擦り付けて大衆を騙した最初の事例。後の犯行便乗路線に繋がっている。
　DEGITAL-TATOO（デジタルタトゥー） – 唐澤貴洋の誤字の 1 つ。ネットから 10 年以上消えない唐澤貴洋の炎上騒動の事を指す事が多い。
　IP アドレス（アイピー-） – インターネット上において書き込み元を示すアドレス。開示請求などはここから始まる事がほとんどのため、恒心教徒は Tor などを使って IP アドレスを偽装している事が多い。
　KRSW（からさわ） – 唐澤貴洋の隠語の 1 つ。淫夢界隈で使われる TDN 表記を使って唐澤を表記するとこうなる。（KaRaSaWa）
　photo.jpg（ふぉと どっと じぇいぺぐ） – 唐澤貴洋が最初に使っていた似顔絵のファイル名。唐澤貴洋の顔が明らかになるまではこの画像が唐澤貴洋として扱われていた。現在でもこのファイルを元にした二次創作は盛んに行われている。
　Tor（とーあ） – Tor ノードと呼ばれるサーバーを複数経由する事で接続元を追跡されにくくする技術。アメリカ発祥で恒心教徒には広く普及している。
　40298 – 弁護士ドットコムで唐澤貴洋が自作自演したと疑われる書き込み ID。転じて自作自演を意味する隠語としても用いられる。
　43044 – 唐澤貴洋の弁護士番号。40298 と合わせて恒心教を代表する 5 桁の数字として頻繁に使われる。

編集後記

本書は共著であり、複数の編集者が関わっているためそれぞれの編集者のコメントを本項に記載しておく。

本書の作成にあたり、様々な恒心教徒の助力があった。本誌の最後として彼らに感謝の気持ちとして本文を記しておく。

本文中にもあった通り、恒心教は流動性の高い集団であるが故に現在の恒心教を知っていても過去の恒心教を知らないといった事例は多々あり（その逆もある）、そういった情報を補完するために先人が記した情報である唐澤貴洋 Wiki に大いに頼っている部分も存在する。こういった事を記載する際に、恒心教徒が運営するサイトで書かれた文章は、基本的に第三者の妨害を受けて記事が改竄されるといった事があまり起こらず、一般的な Wiki でありがちな荒らしによる壊滅的な被害を受けにくいため、現在に至るまで当時の記録が残っている。

そういった恒心教の情報を纏めてくれた数々の編集者との出会いに感謝の気持ちを示したい。（本文・整形担当者）

本書を手に取ってくださり出会いに感謝。

当歴史書は昨年の 2024 年の秋に当職が提案した所、心ある方々が集まり編纂が始まりました。

2025 年 8 月現在、恒心教の教祖たる弁護士唐澤貴洋弁護士が救いようのない狂気の底に沈む中、もし教祖が健康上の問題や凶刃によって倒れた場合、恒心教は瓦解・記録が散逸してしまうという危機感から行われた活動が身を結んだようでなりよりです。

本書の方針としまして「後世の人々の批評に堪え得る」ものにする為「新規性と客観性がある事」を心がけ、メンバーにもそれを周知・徹底させました。

もしこの書の中で批判されるような点があるのであれば、それは提案者である当職に責任があります。

また恥ずかしながら当職が行った事は編纂活動の立ち上げと方針の提示、そして本書の印刷に関する諸手続き全般程度で大した事はしていませんを。

恒心教の活動としてはかなり長期かつ大人数での活動で何度か投げ出しそうになりましたが、そうならなかったのは当職が一貫して諦めなかった事と、有能なメンバーたちの存在のおかげでふ。

彼らとの出会いにも感謝。（本書編纂の提唱者）

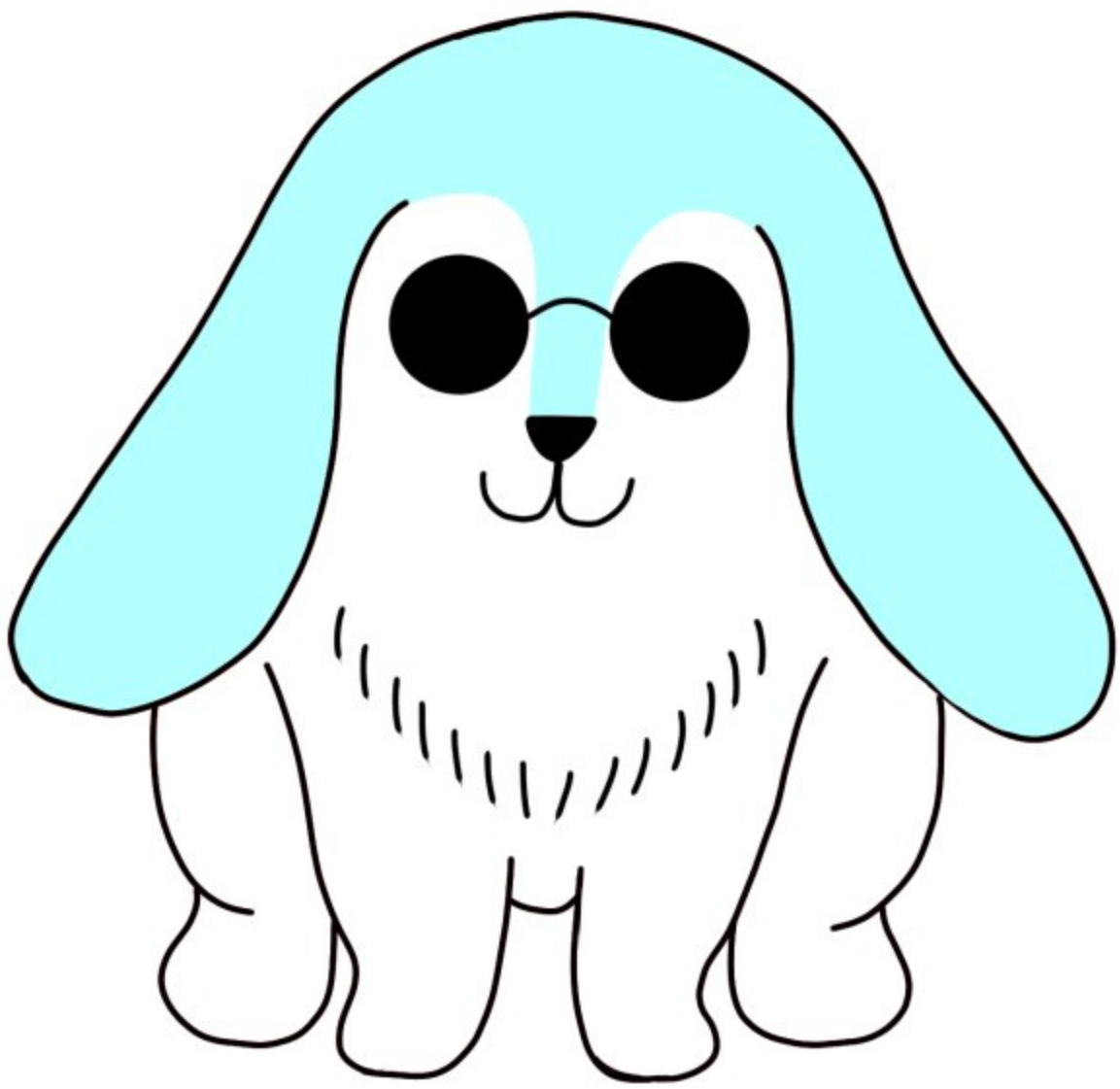
本書を手に取った貴方との出会いに感謝。

恒心教徒でも、そうでなくても、本書を読んでくれた事に感謝します。

本書の執筆に協力した理由は、恒心教というくだらないものを後世に残したかったからです。

当職は尊師と同じように DNA を残せません、先祖代々続いてきた尊い情報を残せないの

です。
　それは先祖と両親、様々な方にとっての裏切りでしょう。
　ですが、人は文化や歴史や言葉といった物語…つまりミームを残すことができます。
　gene を残せないものに与えられた機会が meme なのです。
　当職はミームたる恒心教を残します、そうして、自分に降り注ぐ死の切なさと悲しさを払い、私に機会を与えてくれた先人の恒心教徒に報いる。
　恒心教を残し、恒心教徒として生きた人々を残す。
　本書はミームを乗せる精子です。
　様々な人が関わり、成立した恒心教というミームを乗せる精子。
　着床を願い、未来へと泳ぐ精子です。
　そして今、貴方に着床したのです。（本書執筆協力者）



恒心教の歴史

発行日 2025年8月17日
著者・発行 恒心教歴史保存会
印刷 株式会社ACCEA